

子どもの生活に関する実態調査について

I 調査概要

1. 調査の目的

子どもたちの生活状況や学習環境、保護者の生活状況などを把握し、得られた結果を分析することによって、今後、効果的な子どもの貧困対策を検証するとともに、支援を必要とする子どもや家庭に対する方策を検討することを目的とする。

2. 調査方法

摂津市内の調査対象の世帯に、学校を通じて調査票を配付し、回収を得たもの。

3. 調査対象者

小学校5年生・その保護者(650世帯) 中学校2年生・その保護者(694世帯)

4. 調査実施日

摂津市:令和5年7月7日～令和5年7月31日

大阪府内全自治体:令和5年6月27日～令和5年9月30日

5. 調査配布・回収率(数)

調査票の回収状況

		回収率(%)	回収数	配布数
摂津市	小学5年生	32.6	212	650
	小学5年生の保護者	32.3	210	650
	中学2年生	22.2	154	694
	中学2年生の保護者	21.2	147	694
	小学5年生・中学2年生合計	27.2	366	1,344
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	26.6	357	1,344
	計	26.9	723	2,688
大阪府全自治体	小学5年生	56.2	23,289	41,458
	小学5年生の保護者	55.0	22,819	41,458
	中学2年生	51.4	19,990	38,911
	中学2年生の保護者	49.8	19,390	38,911
	小学5年生・中学2年生合計	54.0	43,370	80,369
	小学5年生保護者・中学2年生保護者合計	53.9	43,358	80,369
	計	54.0	86,728	160,738

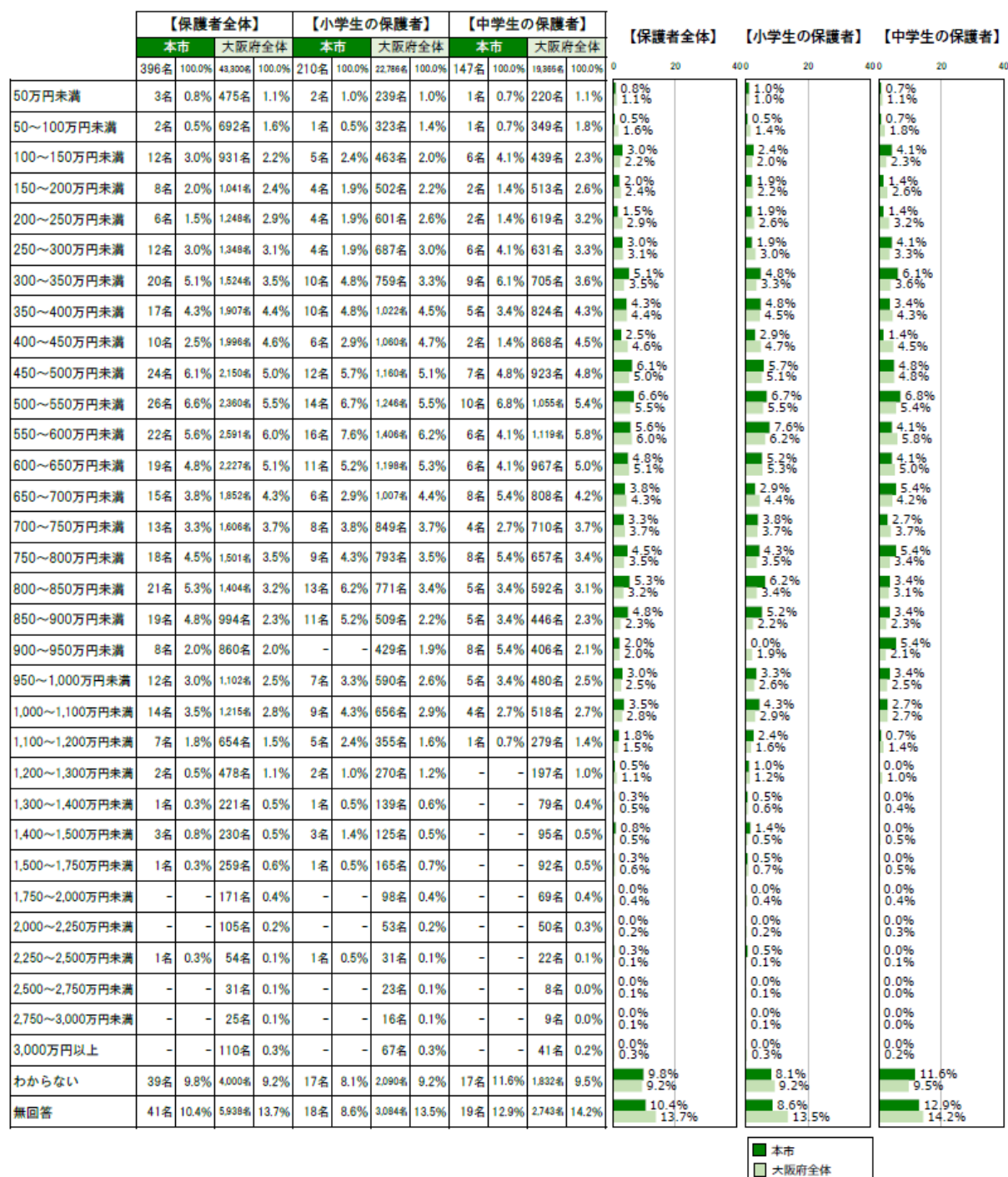
Ⅱ 調査結果(抜粋)

1. 家計・収入・就業に関すること

問24 世帯収入

保護者全体は、「500～550万円未満」が6.6%で最も多く、次いで「450～500万円未満」が6.1%、「550～600万円未満」が5.6%、「800～850万円未満」が5.3%となっている。

小学生の保護者は「550～600万円未満」が7.6%で最も多く、次いで「500～550万円未満」が6.7%、「800～850万円未満」が6.2%となっている。中学生の保護者は「500～550万円未満」が6.8%で最も多く、次いで「300～350万円未満」が6.1%、「650～700万円未満」、「750～800万円未満」、「900～950万円未満」がそれぞれ5.4%となっている。



世帯収入額と世帯人数に基づく等価可処分所得

今回の調査において世帯所得をたずねているが、この回答のみで世帯の困窮の状態を測ることはできない。実際の生活上の体験や困りごとを把握するため、多面的に貧困を測る指標として、「等価可処分所得」およびそれらを基に区分した「困窮度」を用いている。

国民生活基礎調査における相対的貧困率は、一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいう。貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいう。算出方法は、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づく。EU、ユニセフ（ただし、常に60%基準採用ではない）は60%を採用している。

世帯の可処分所得はその世帯の世帯人員数に影響されるので、世帯人員数で調整する必要がある。最も簡単なのは「世帯の可処分所得÷世帯人員数」とすることであるが、生活水準を考えた場合、世帯人員数が少ない方が生活コストが割高になることを考慮する必要がある、このため、世帯人員数の違いを調整するにあたって「世帯人員数の平方根」を用いている。出典：厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/20-21a-01.pdf>

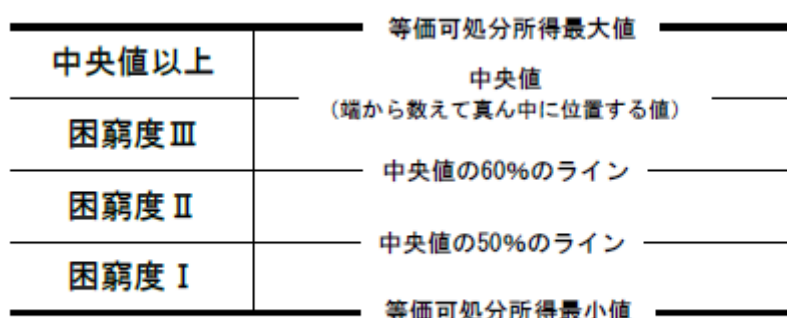


図 困窮度の分類と基準

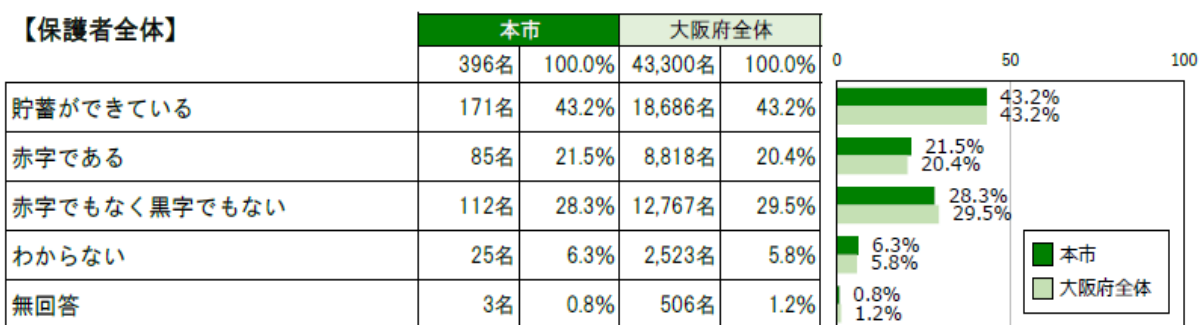
中央値は288万円、国の定める基準で行くと相対的貧困率は12.7%であった。

なお、大阪府内全自治体における相対的貧困率は15.9%であった。



保護者全体は「中央値以上」が52.2%で最も多く、次いで「困窮度Ⅲ」が29.4%、「困窮度Ⅰ」が12.7%、「困窮度Ⅱ」が5.7%となっている。

問6（1）家計の状況



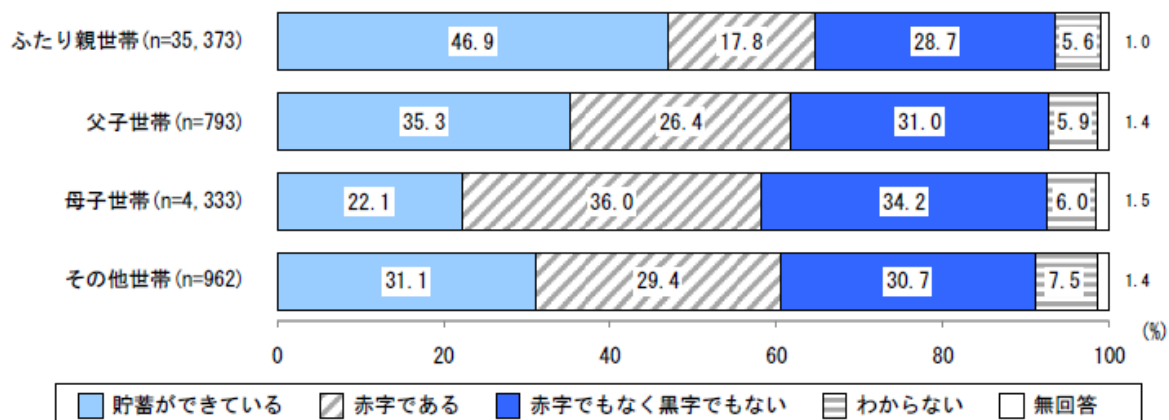
保護者全体は、「貯蓄ができています」が43.2%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が28.3%、「赤字である」が21.5%となっている。

小学生の保護者は、「貯蓄ができています」が49.5%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が24.8%、「赤字である」が18.6%となっている。

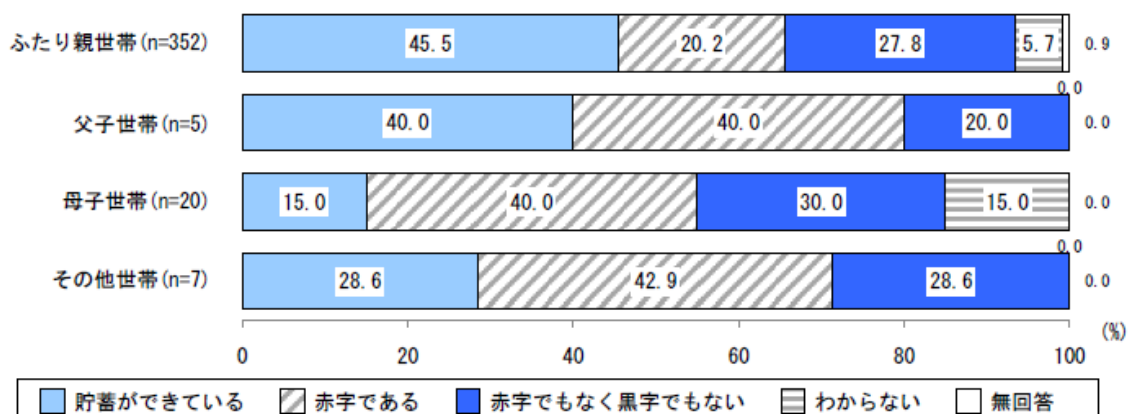
中学生の保護者は、「貯蓄ができています」が34.0%で最も多く、次いで「赤字でもなく黒字でもない」が33.3%、「赤字である」が24.5%となっている。

世帯構成別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>



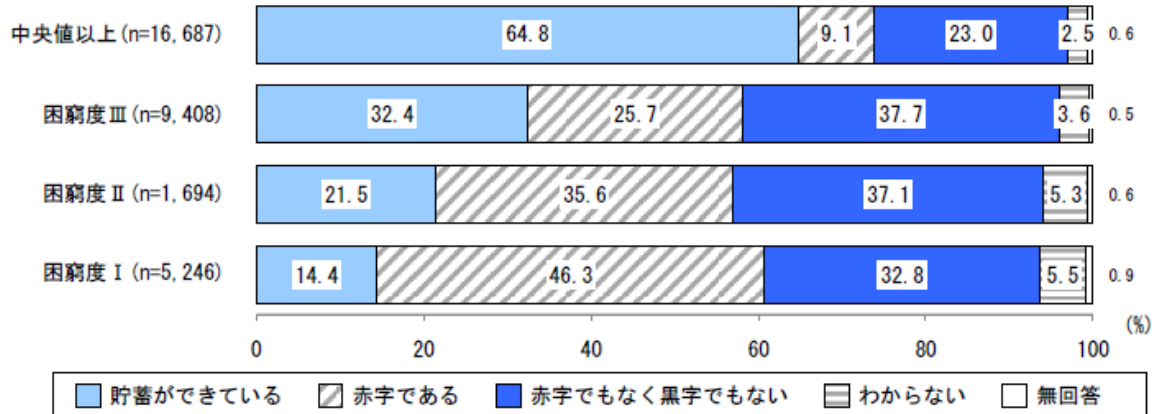
<摂津市>



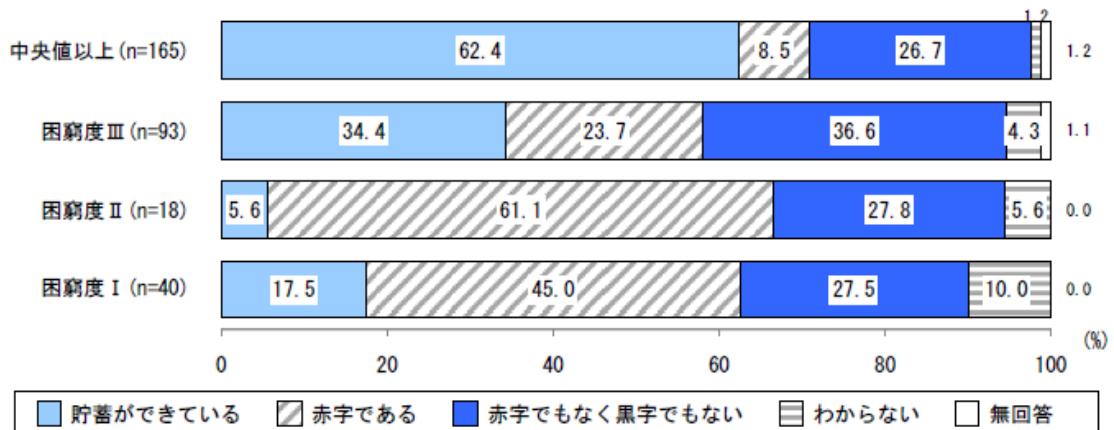
世帯構成別に家計の状況を見ると、「貯蓄ができていない」と回答した割合は、ふたり親世帯が45.5%なのに対して、母子世帯は 15.0%だった。また、「赤字である」と回答したのは、ふたり親世帯が 20.2%なのに対して、母子世帯、父子世帯とも 40.0%だった。

困窮度別に見た、家計の状況（保護者票問 6(1)）

<大阪府内全体>

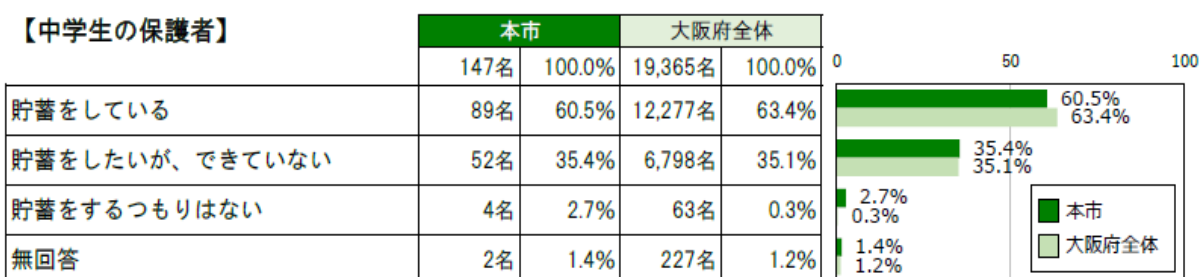
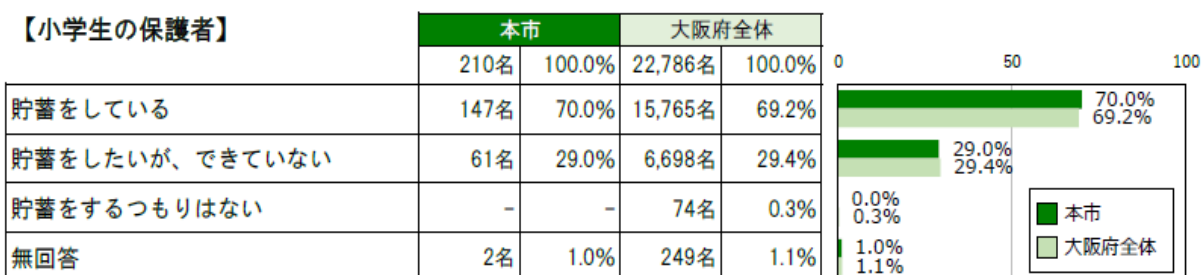
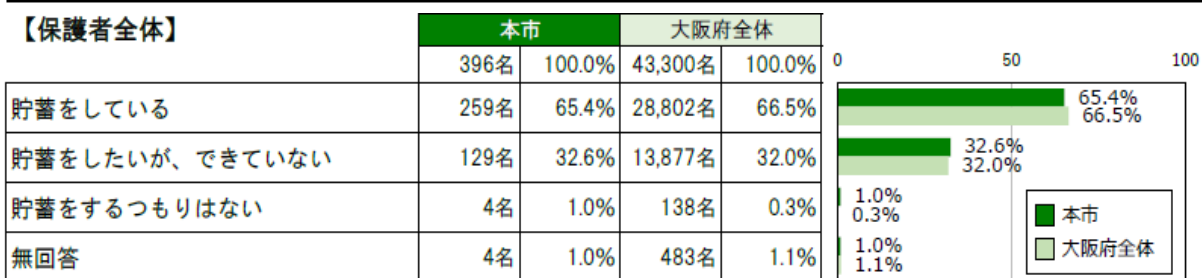


<摂津市>



困窮度別に家計の状況を見ると、困窮度が高まるにつれて、「貯蓄ができている」と回答する割合が低くなり、逆に、「赤字である」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「赤字である」と回答した世帯の割合は、8.5%であるのに対して、困窮度Ⅰ群では、45.0%となり、4割を超えている。

問6（2）子どもの将来のための貯蓄状況



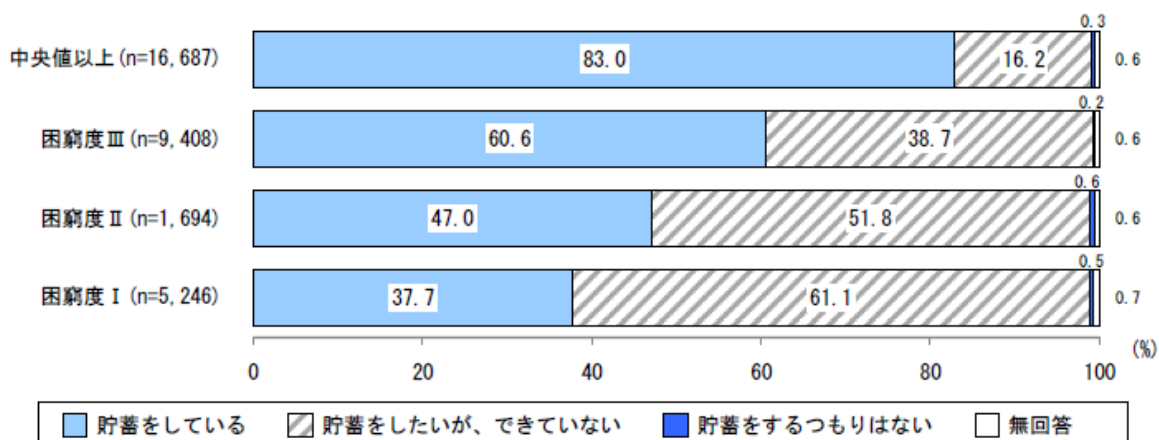
保護者全体は、「貯蓄をしている」が65.4%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が32.6%、「貯蓄をするつもりはない」が1.0%となっている。

小学生の保護者は、「貯蓄をしている」が70.0%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が29.0%となっている。

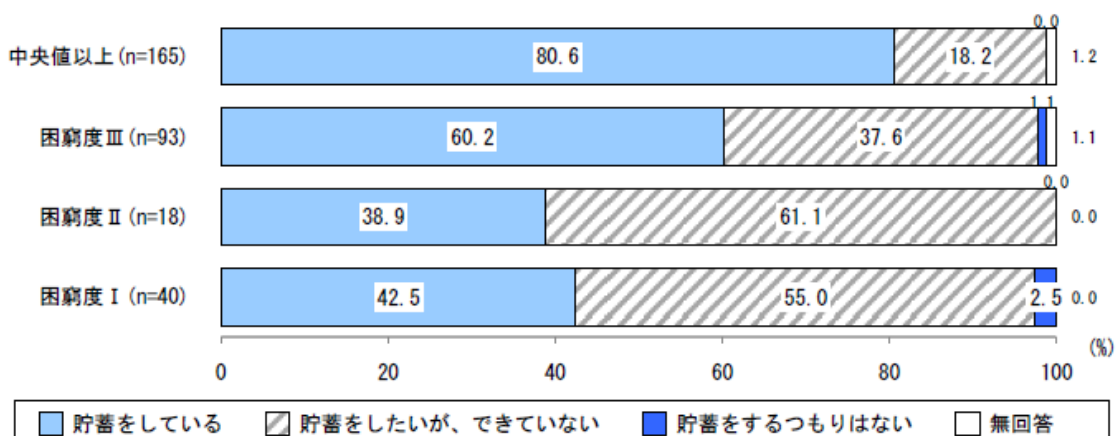
中学生の保護者は、「貯蓄をしている」が60.5%で最も多く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」が35.4%、「貯蓄をするつもりはない」が2.7%となっている。

困窮度別に見た、子どもの将来のための貯蓄状況（保護者票問 6(2)）

<大阪府内全体>



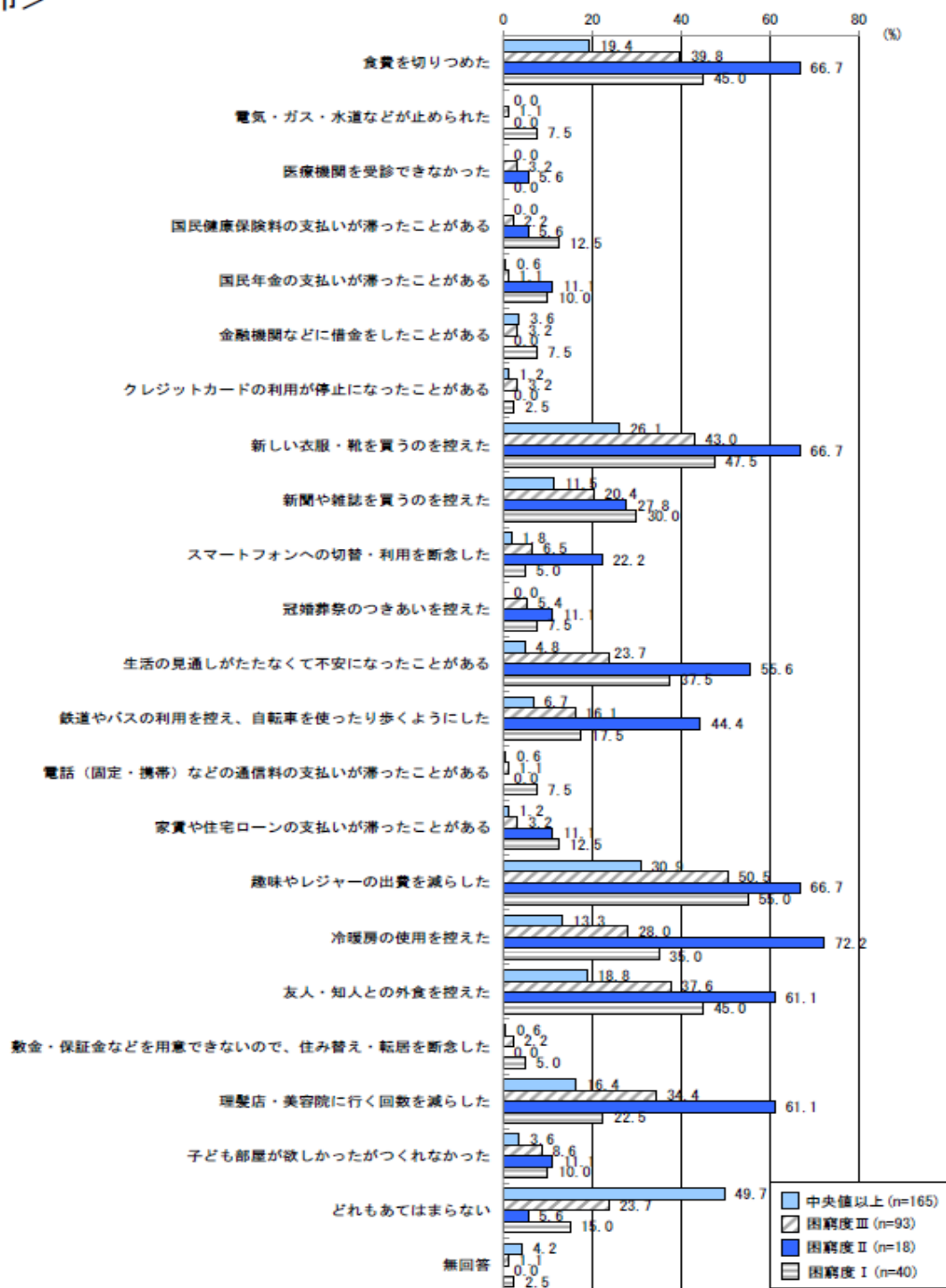
<摂津市>



困窮度別に子どもの将来のための貯蓄状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「貯蓄をしたいが、できていない」という回答が高くなっている。中央値以上群では、「貯蓄をしている」と回答する割合が 80.6%を占めたが、困窮度Ⅰ群では 42.5%にとどまり、「貯蓄をしたいが、できていない」が 55.0%となっている。

困窮度別に見た、経済的な理由による経験（保護者票問7）

<摂津市>

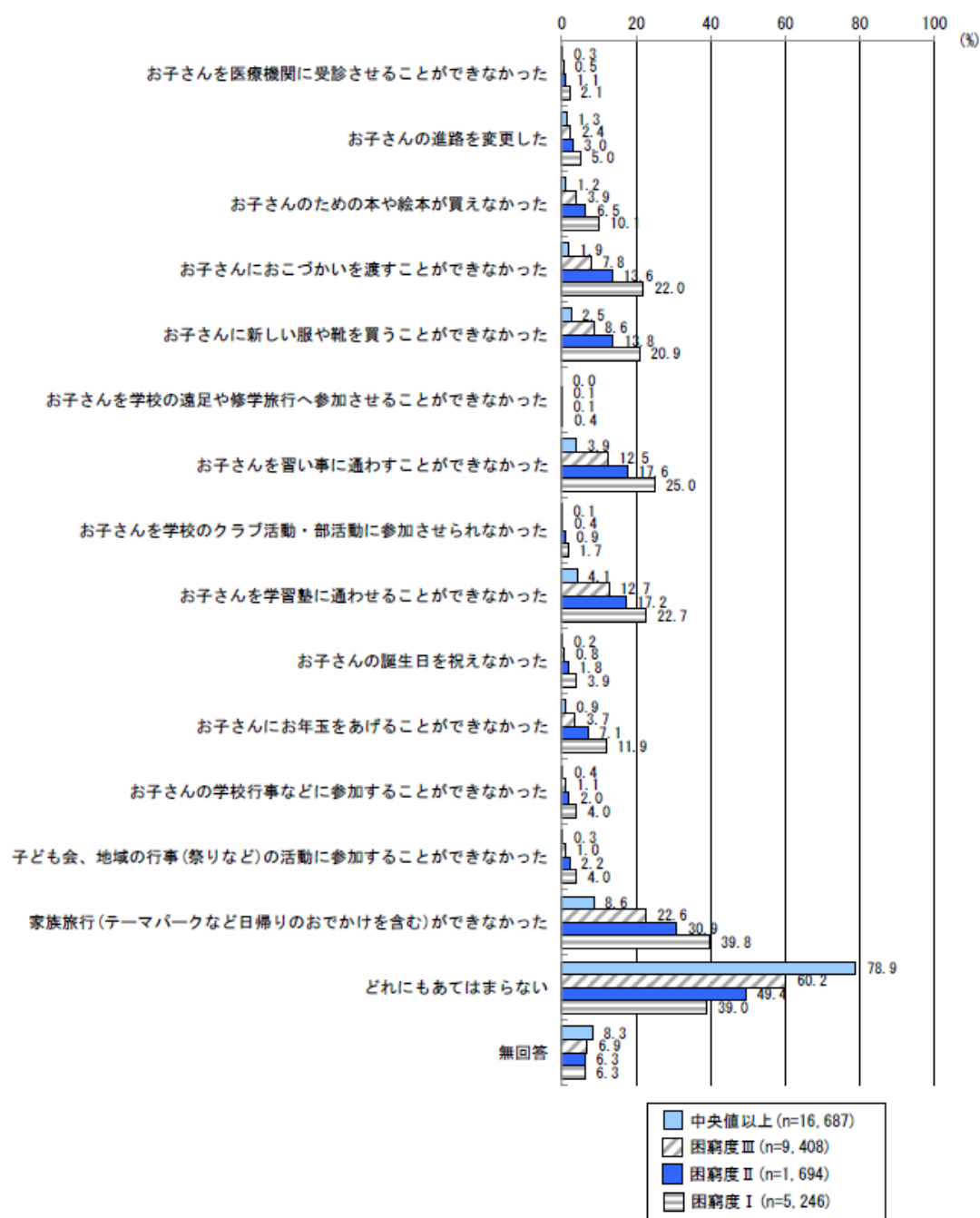


困窮度別に子どもへの経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「お子さんにおこづかいを渡すことができなかった」が20.0%（中央値以上群に対して33.3倍）、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が22.5%（同じく12.5倍）となっている。

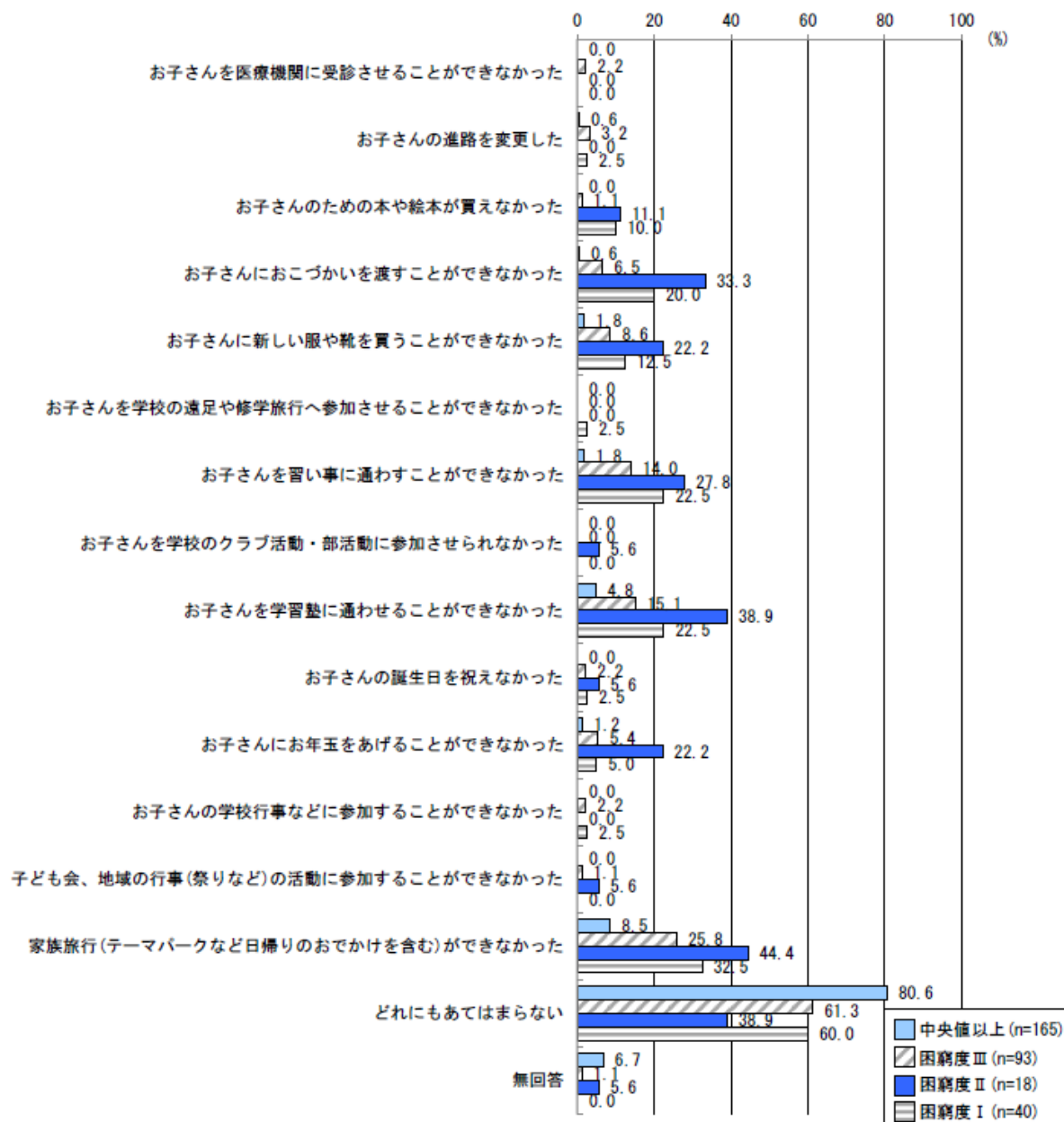
また、「どれにもあてはまらない」は中央値以上群で 80.6%に対して、困窮度Ⅰ群において 60.0%だった。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<摂津市>

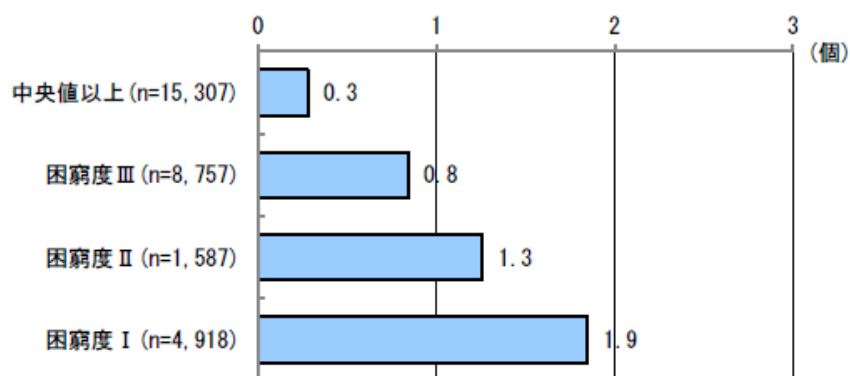


困窮度別に子どもへの経済的な理由による経験を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群を見ると、「お子さんにおこづかいを渡すことができなかった」が20.0%(中央値以上群に対して33.3倍)、「お子さんを習い事に通わすことができなかった」が22.5%(同じく12.5倍)となっている。

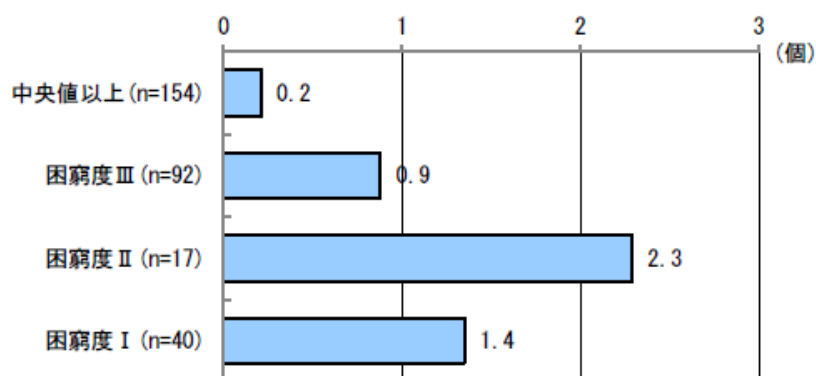
また、「どれにもあてはまらない」は中央値以上群で 80.6%に対して、困窮度Ⅰ群において 60.0%だった。

困窮度別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票問 12）

<大阪府内全体>



<摂津市>

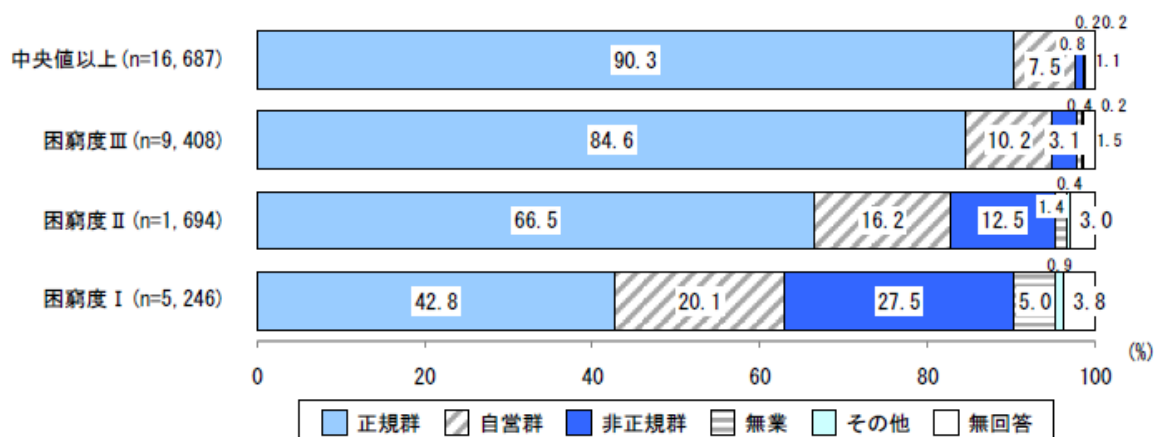


子どもに関して経済的な理由による経験として示した14個の項目のうち、該当すると回答された数について、困窮度別に平均値を算出した。

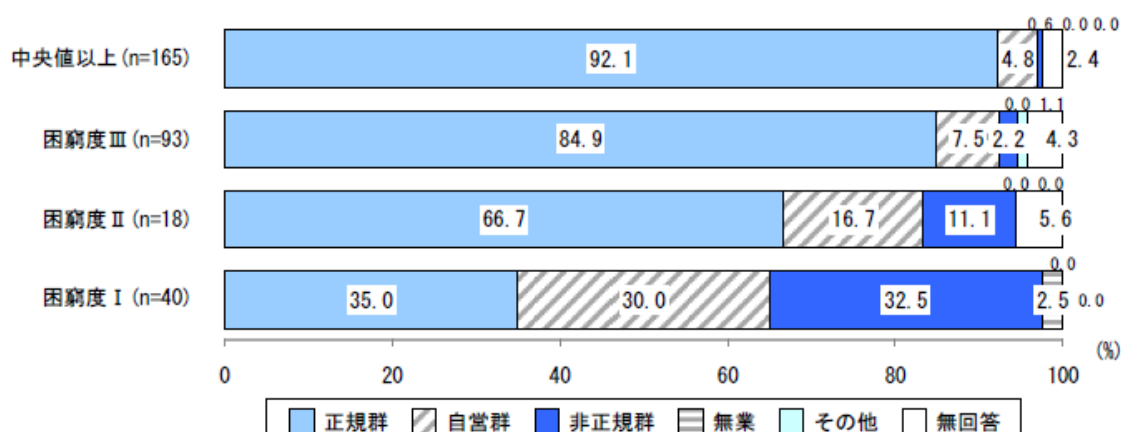
その結果、困窮度が高くなるにつれ、経済的な理由で子どもにできなかったことの該当数は多くなり、困窮度Ⅱ群が 2.3 個で最も多いが、困窮度Ⅰ群は 1.4 個と少なくなっている。

困窮度別に見た、就労状況（保護者票問9より）

<大阪府内全体>



<摂津市>



困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、「自営群」、「非正規群」の割合が高くなっている。困窮度Ⅰ群においては他と比べて「非正規群」、「無業」の割合が高く、それぞれ32.5%、2.5%となっている。

※分類方法は以下の通り。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれれば「正規群」、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれれば「自営群」、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれれば「非正規群」、

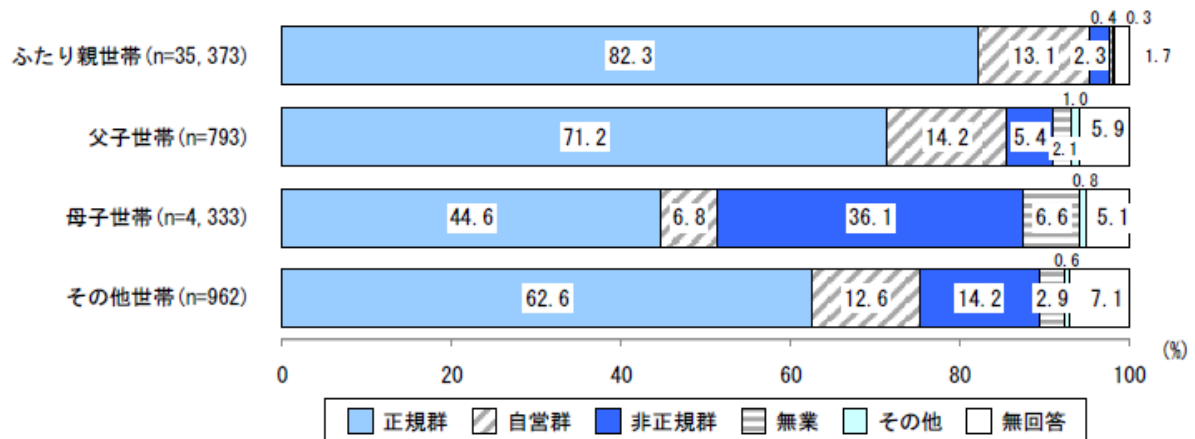
上記以外で、誰も働いていなければ「無業」。

上記以外が「その他」となる。

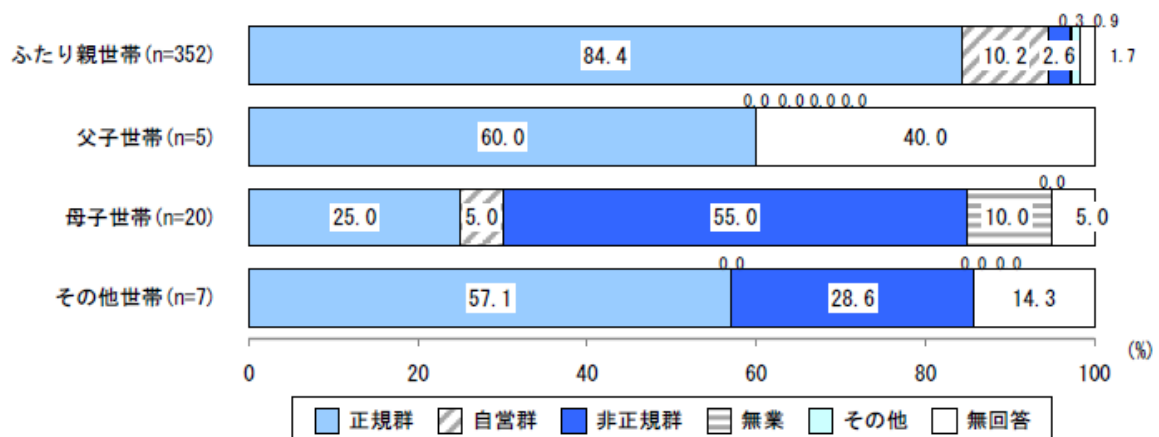
ここでの無業とは、「ふだん仕事をしていない者、すなわち、ふだん全く仕事をしていない者及び臨時的にしか仕事をしていない者」を指す(就業構造基本調査による)。クロス集計で「就労状況」を用いる時は、上記区分による。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票問2×保護者票問9）

<大阪府内全体>



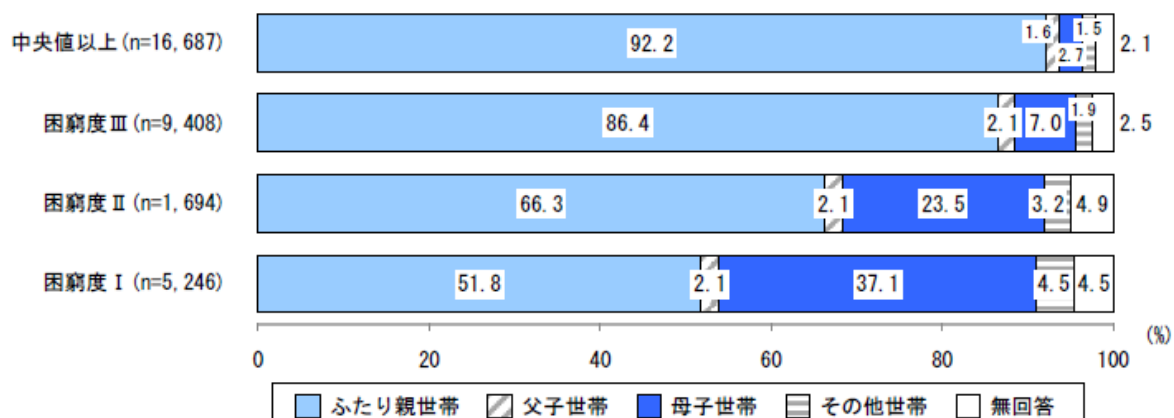
<摂津市>



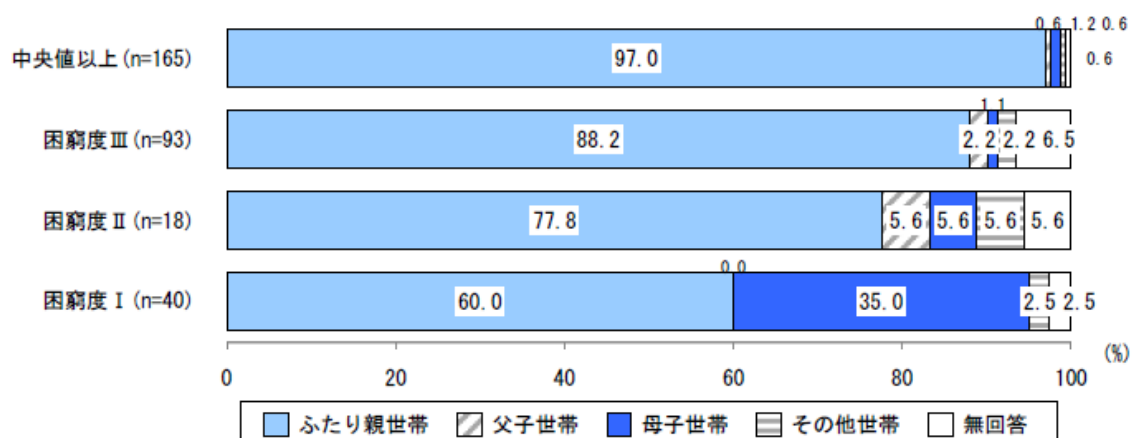
世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が84.4%であるが、「母子世帯」では25.0%と低くなる。「非正規群」は、「母子世帯」では55.0%となっている。

困窮度別に見た、世帯員の構成（保護者票問2より）

<大阪府内全体>



<摂津市>

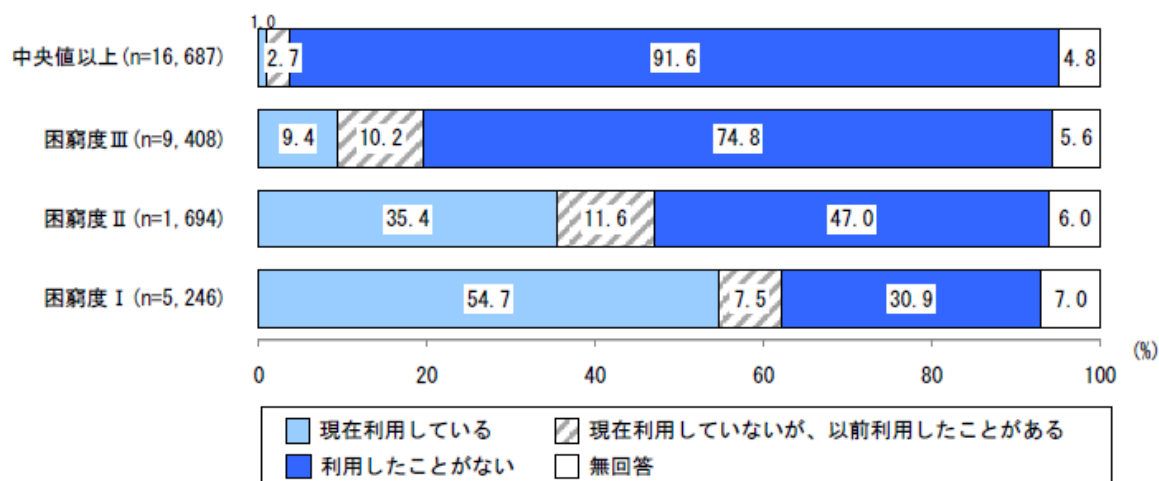


困窮度別に世帯員の構成を見ると、「ふたり親世帯」と回答したのは、中央値以上群が97.0%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は60.0%だった。また、「母子世帯」と回答したのは、中央値以上群が1.2%であるのに対して、困窮度Ⅰ群は35.0%だった。

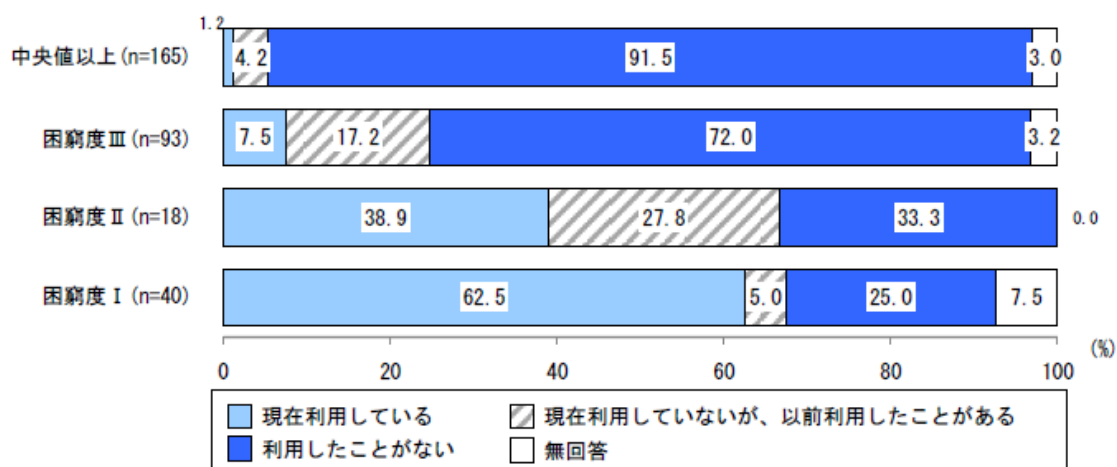
2. 制度利用に関すること

困窮度別に見た、就学援助の利用状況（保護者票問 23-a）

<大阪府内全体>



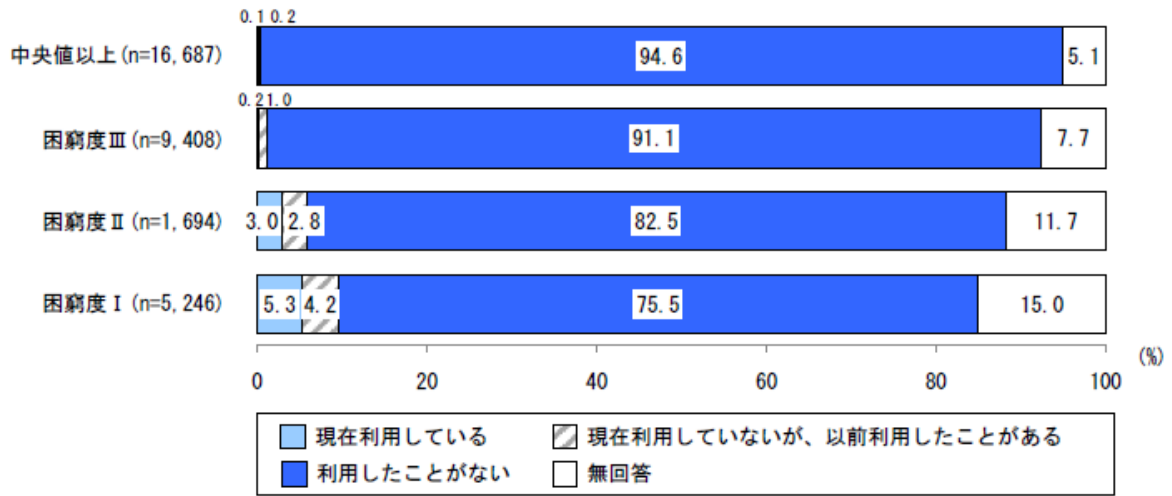
<摂津市>



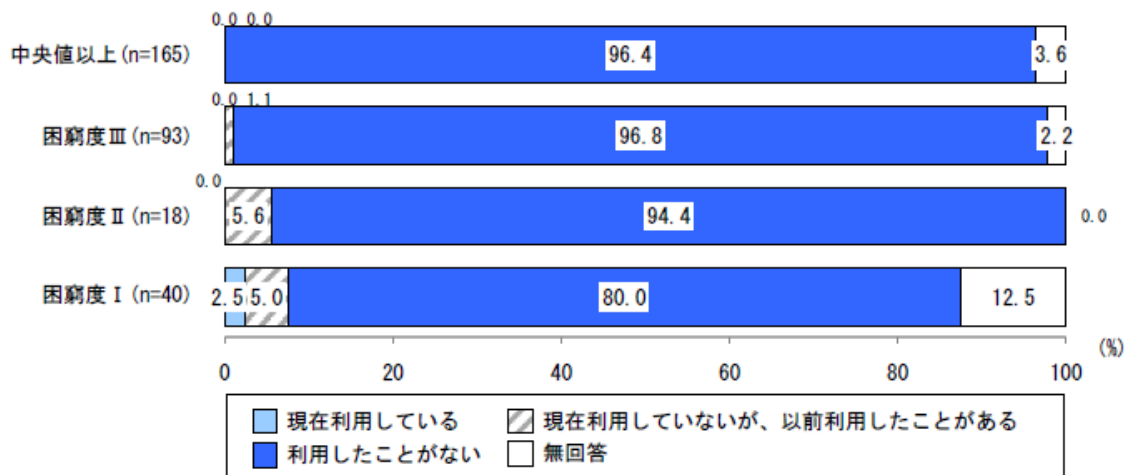
困窮度別に就学援助の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

困窮度別に見た、生活保護の利用状況（保護者票問 23-b）

<大阪府内全体>



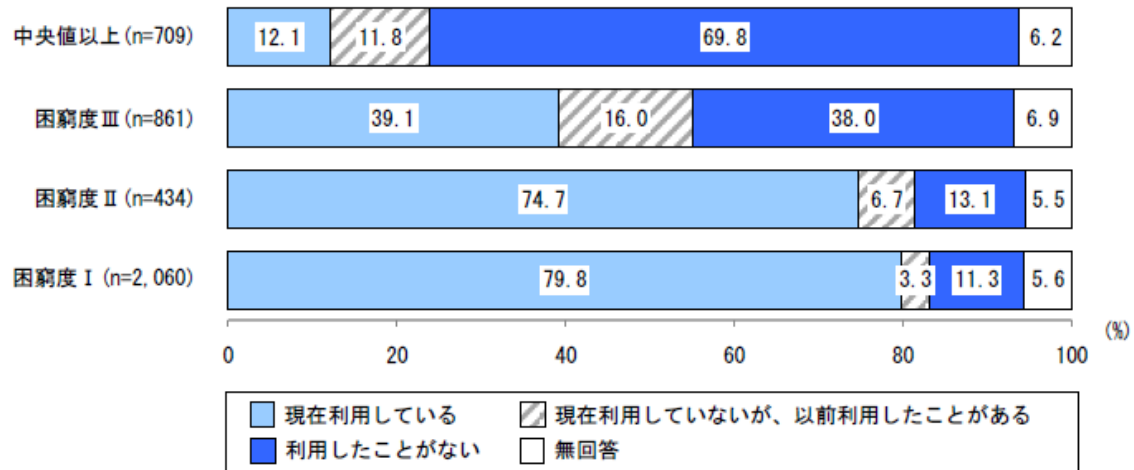
<摂津市>



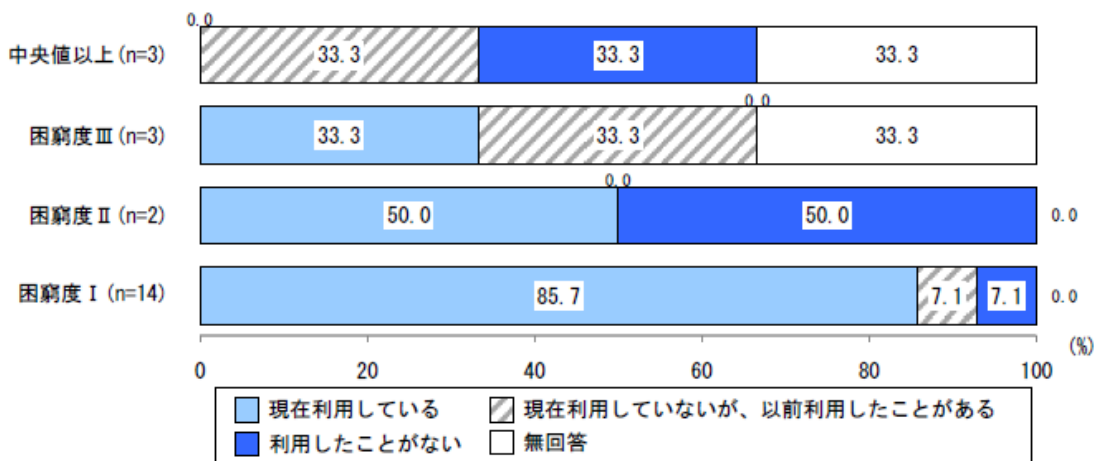
困窮度別に生活保護の利用状況を見ると、困窮度Ⅰ群においては「現在利用している」と回答した割合は 2.5%であった。

困窮度別に見た、児童扶養手当の利用状況（保護者票問 23-d）・ひとり親世帯のみ

<大阪府内全体>



<摂津市>



ひとり親世帯の困窮度別に児童扶養手当の利用状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「現在利用している」と回答した割合が高くなっている。

問25（１）子どもの居場所の利用状況 ①平日の夜や休日を過ごすことができる場所（学童保育など）

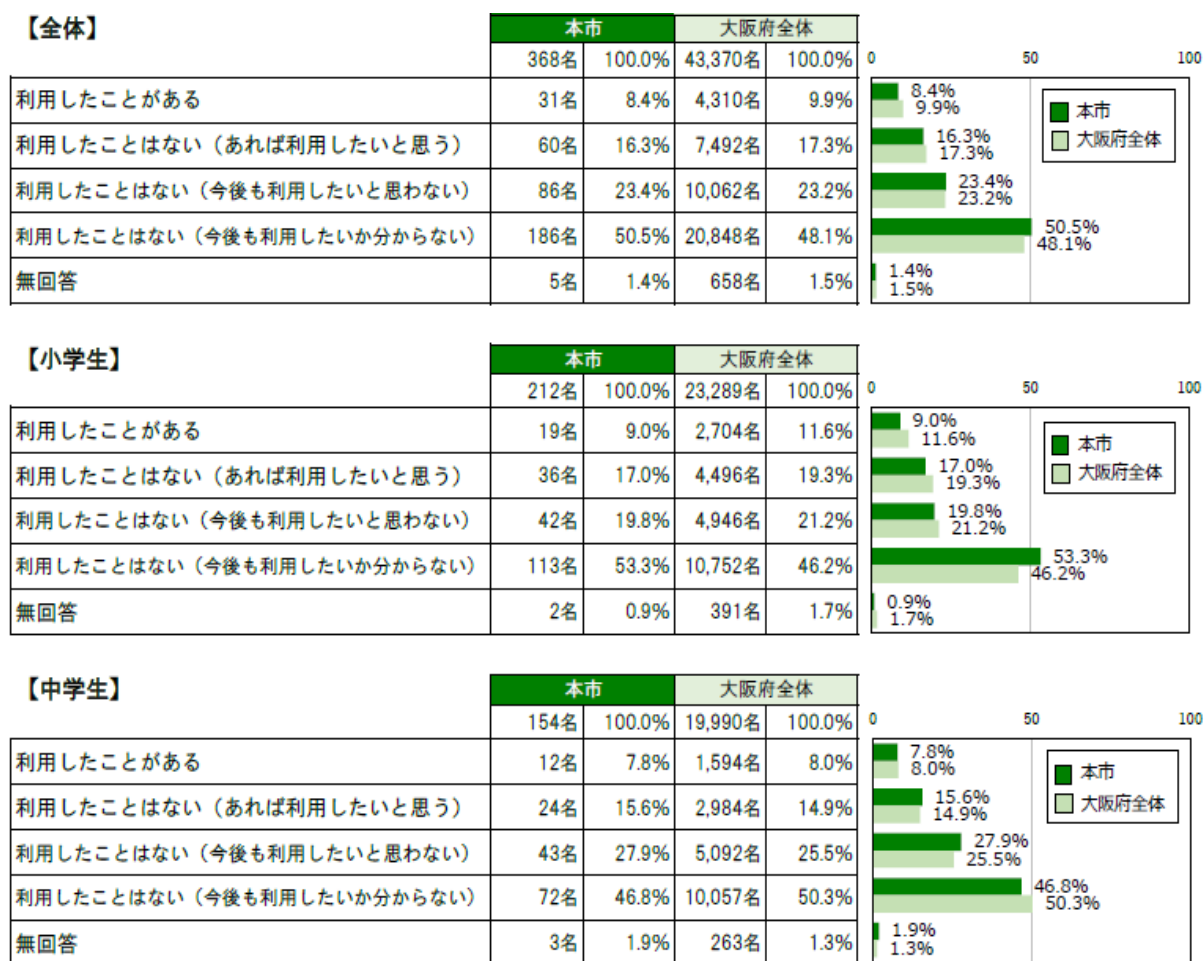


全体は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が42.4%で最も多く、次いで「利用したことがある」が27.4%、「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が23.9%となっている。

小学生は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が42.0%で最も多く、次いで「利用したことがある」が32.1%、「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が20.8%となっている。

中学生は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が42.9%で最も多く、次いで「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が28.6%、「利用したことがある」が20.8%となっている。

問25（１）子どもの居場所の利用状況
②昼食や夕食、お弁当を無料か安い料金を食べることができる場所（子ども食堂など）



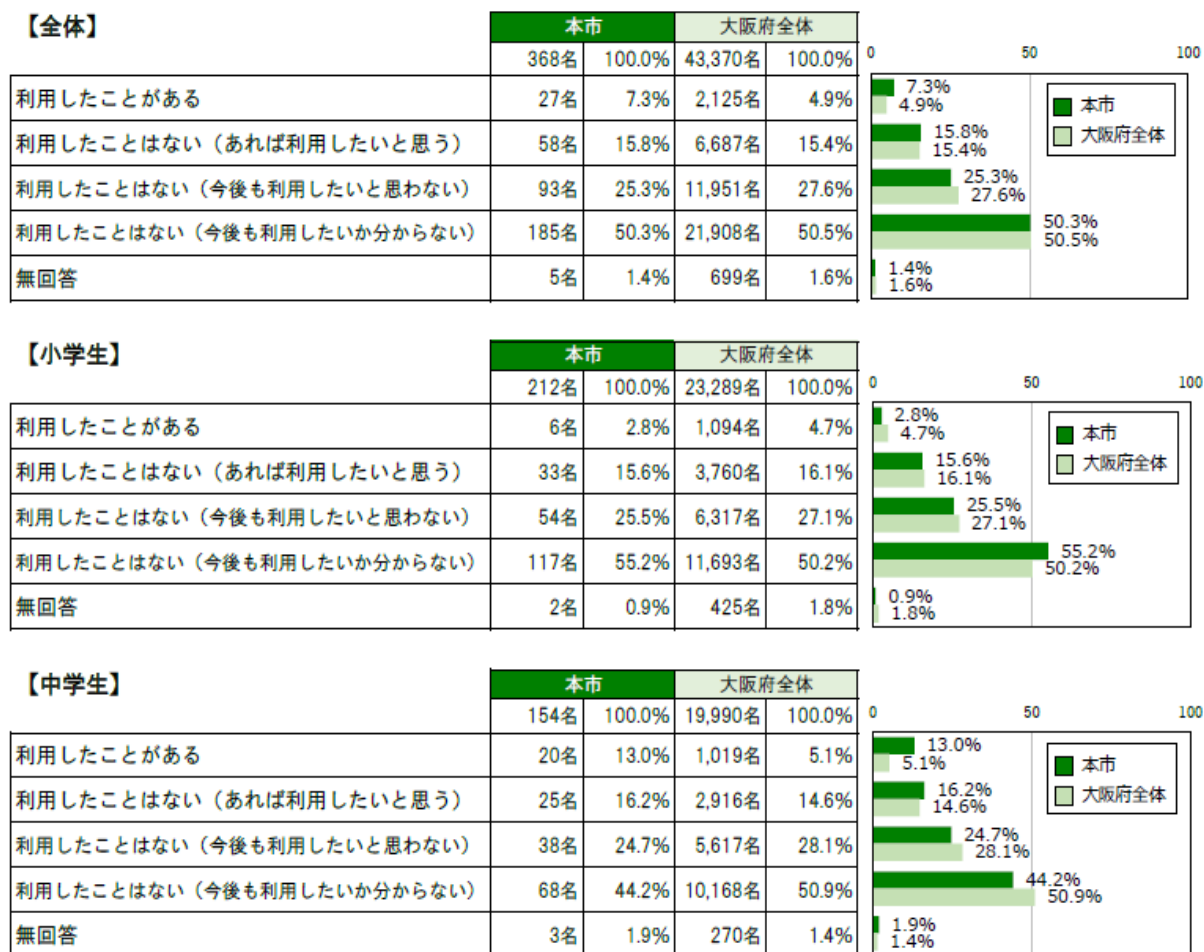
全体は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が50.5%で最も多く、次いで「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が23.4%、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」が16.3%、「利用したことがある」が8.4%となっている。

小学生は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が53.3%で最も多く、次いで「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が19.8%、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」が17.0%、「利用したことがある」が9.0%となっている。

中学生は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が46.8%で最も多く、次いで「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が27.9%となっている。

問25（１）子どもの居場所の利用状況

③勉強を無料か安い料金でみてくれる場所（一般的な学習塾とはちがう学習支援など）



全体は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が50.3%で最も多く、次いで「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が25.3%、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」が15.8%、「利用したことがある」が7.3%となっている。

小学生は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が55.2%で最も多く、次いで「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が25.5%、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」が15.6%、「利用したことがある」が2.8%となっている。

中学生は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が44.2%で最も多く、次いで「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が24.7%、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」が16.2%となっている。

問25（１）子どもの居場所の利用状況 ④何でも相談できる場所（電話やネットの相談をふくむ。）

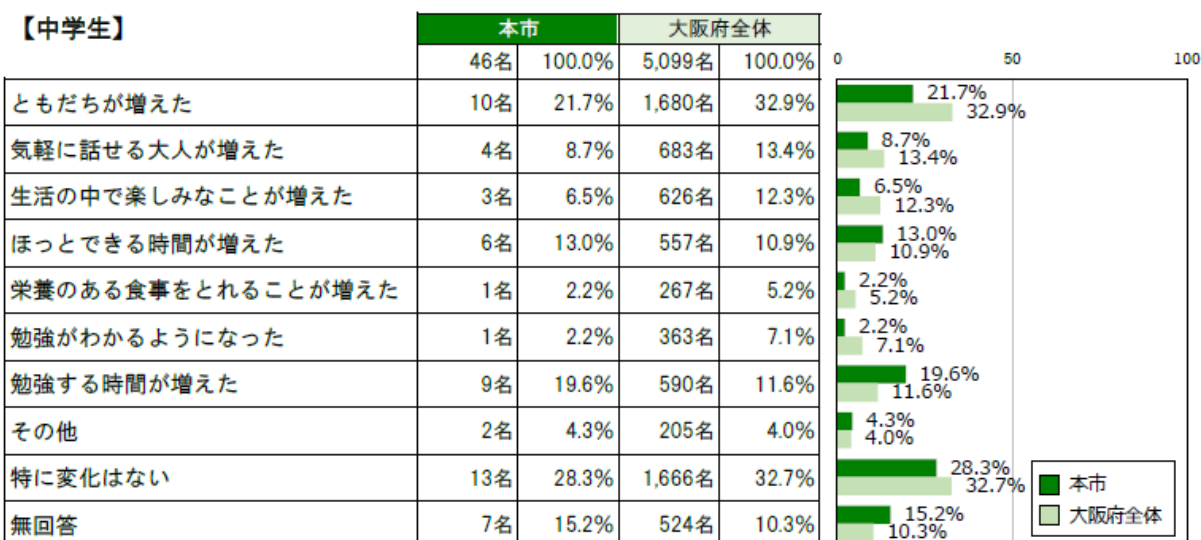
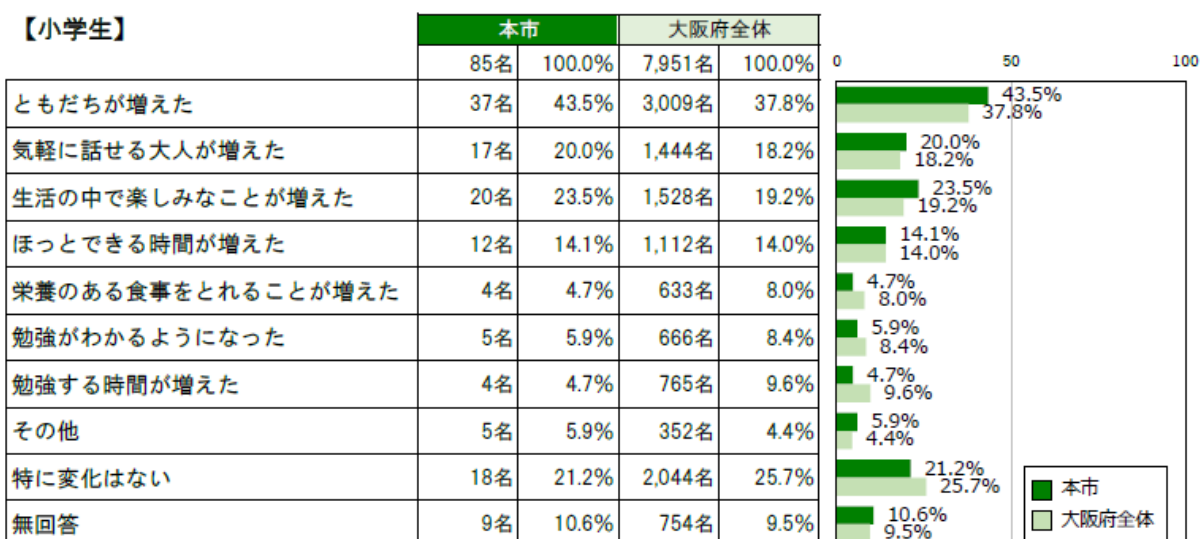
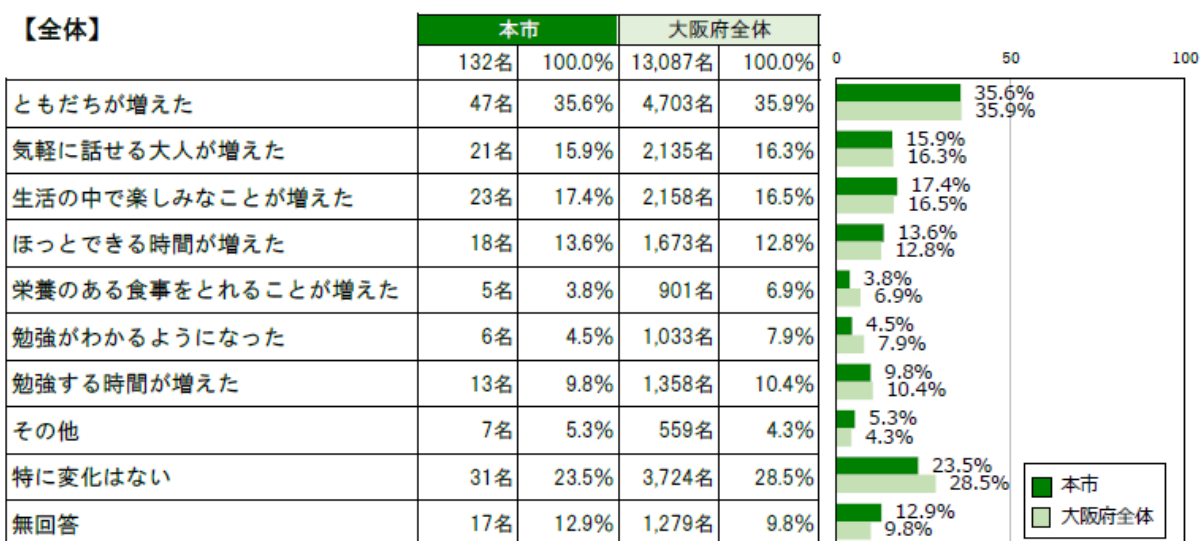


全体は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が57.1%で最も多く、次いで「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が25.3%、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」が11.1%、「利用したことがある」が5.2%となっている。

小学生は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が60.8%で最も多く、次いで「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が24.1%、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」が9.9%、「利用したことがある」が4.2%となっている。

中学生は、「利用したことはない(今後も利用したいか分からない)」が51.9%で最も多く、次いで「利用したことはない(今後も利用したいと思わない)」が27.3%、「利用したことはない(あれば利用したいと思う)」が13.0%となっている。

問25（2）子どもの居場所を利用したときの変化

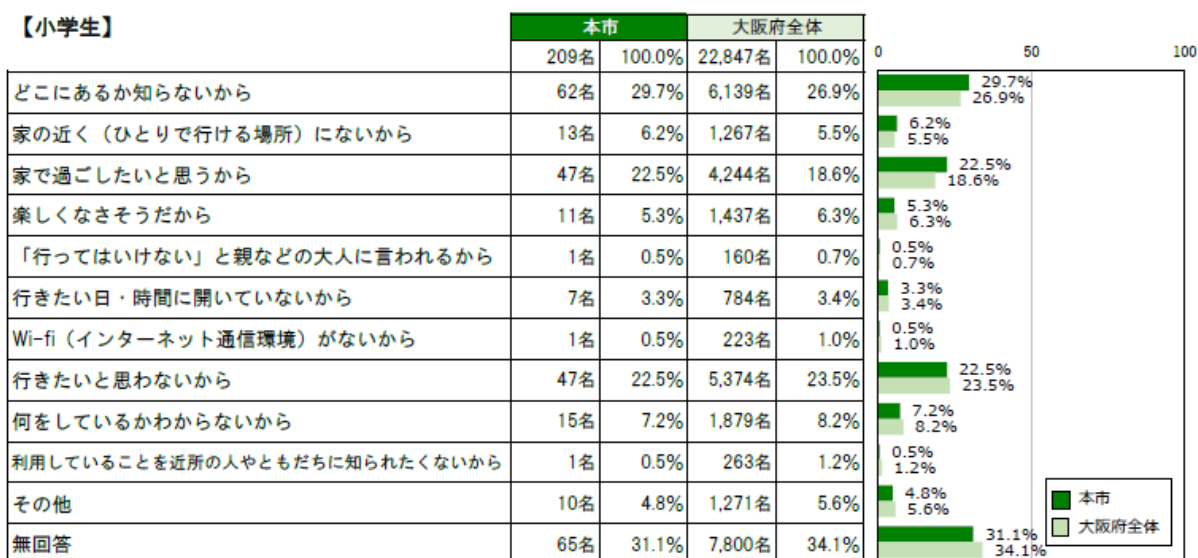
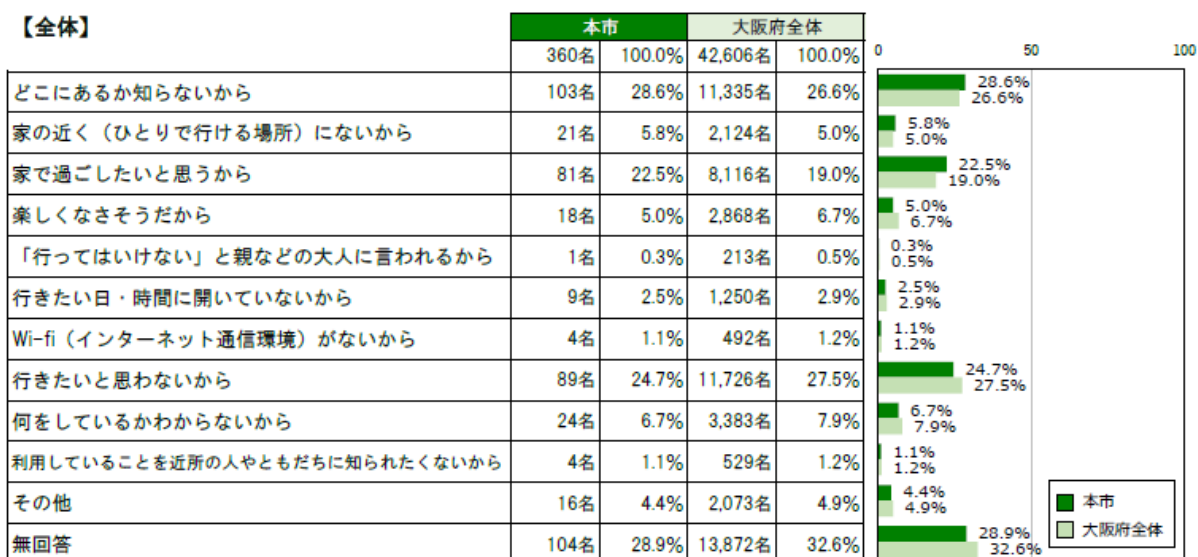


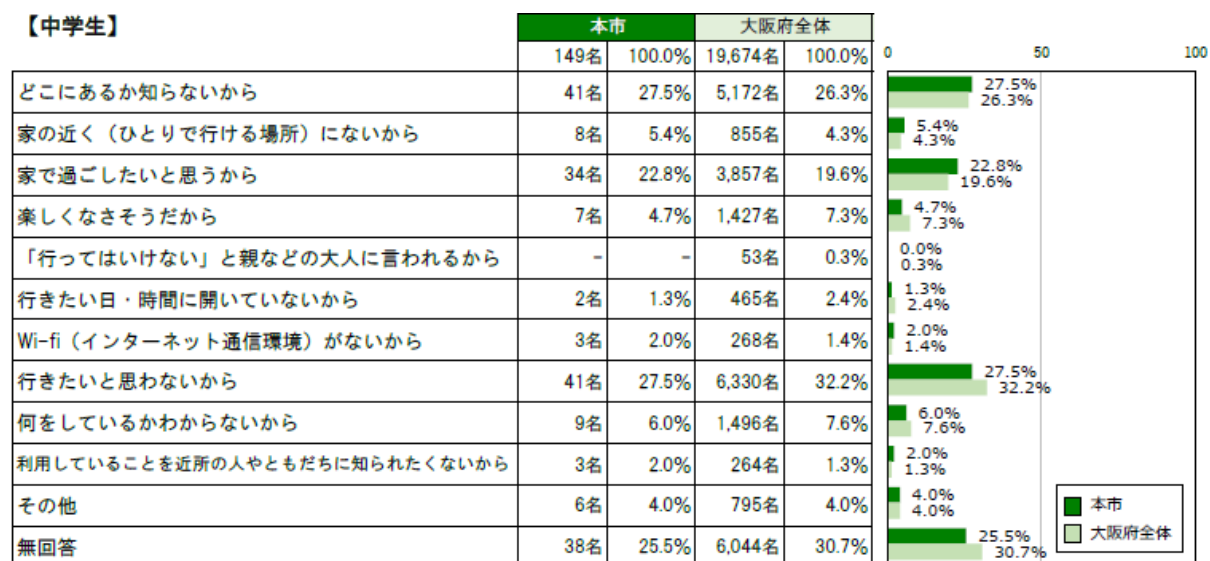
全体は、「ともだちが増えた」が35.6%で最も多く、次いで「生活の中で楽しいことが増えた」が17.4%、「気軽に話せる大人が増えた」が15.9%、「ほっとできる時間が増えた」が13.6%となっている。

小学生は、「ともだちが増えた」が43.5%で最も多く、次いで「生活の中で楽しいことが増えた」が23.5%、「気軽に話せる大人が増えた」が20.0%、「ほっとできる時間が増えた」が14.1%となっている。

中学生は、「ともだちが増えた」が21.7%で最も多く、次いで「勉強する時間が増えた」が19.6%、「ほっとできる時間が増えた」が13.0%、「気軽に話せる大人が増えた」が8.7%となっている。

問25（3）子どもの居場所を利用したことがない理由



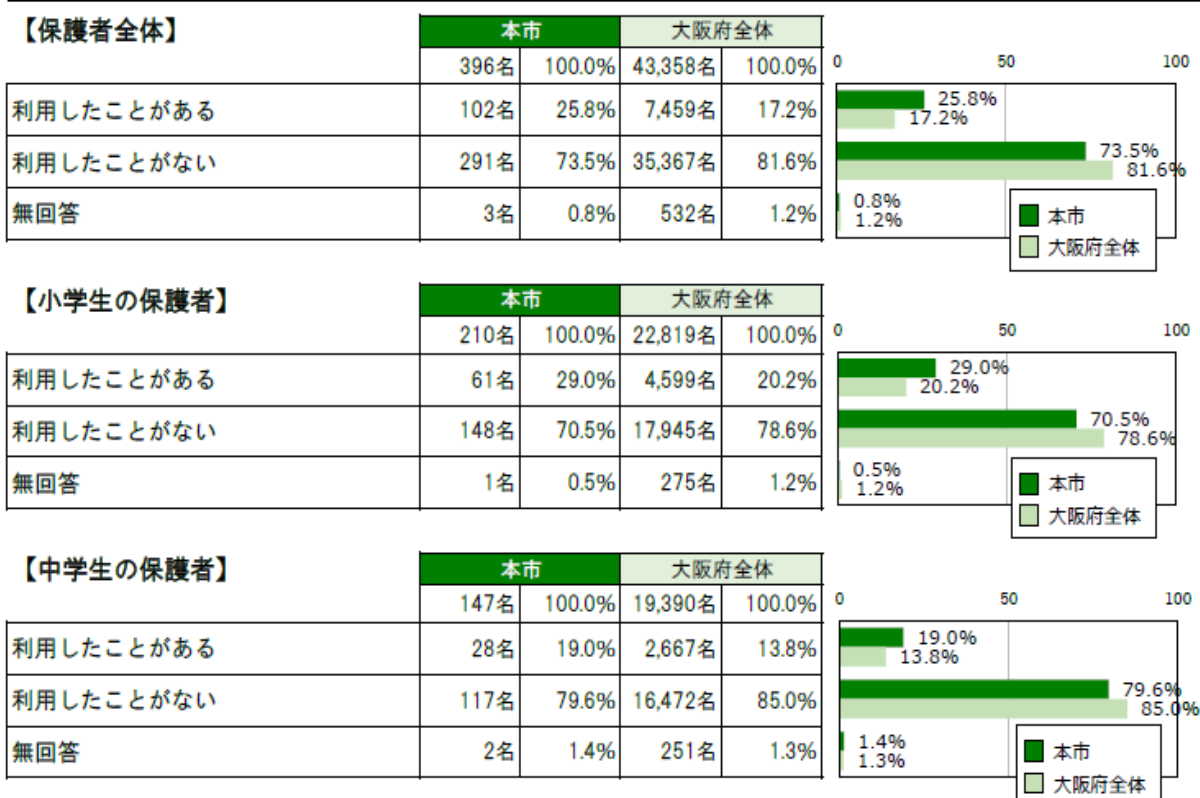


全体は、「どこにあるか知らないから」が28.6%で最も多く、次いで「行きたいと思わないから」が24.7%、「家で過ごしたいと思うから」が22.5%、「何をしているかわからないから」が6.7%となっている。

小学生は、「どこにあるか知らないから」が29.7%で最も多く、次いで「家で過ごしたいと思うから」、「行きたいと思わないから」がそれぞれ22.5%、「何をしているかわからないから」が7.2%、「家の近く（ひとりで行ける場所）にないから」が6.2%となっている。

中学生は、「どこにあるか知らないから」、「行きたいと思わないから」がそれぞれ27.5%で最も多く、次いで「家で過ごしたいと思うから」が22.8%、「何をしているかわからないから」が6.0%、「家の近く（ひとりで行ける場所）にないから」が5.4%となっている。

問16（１）子どもの居場所の利用経験

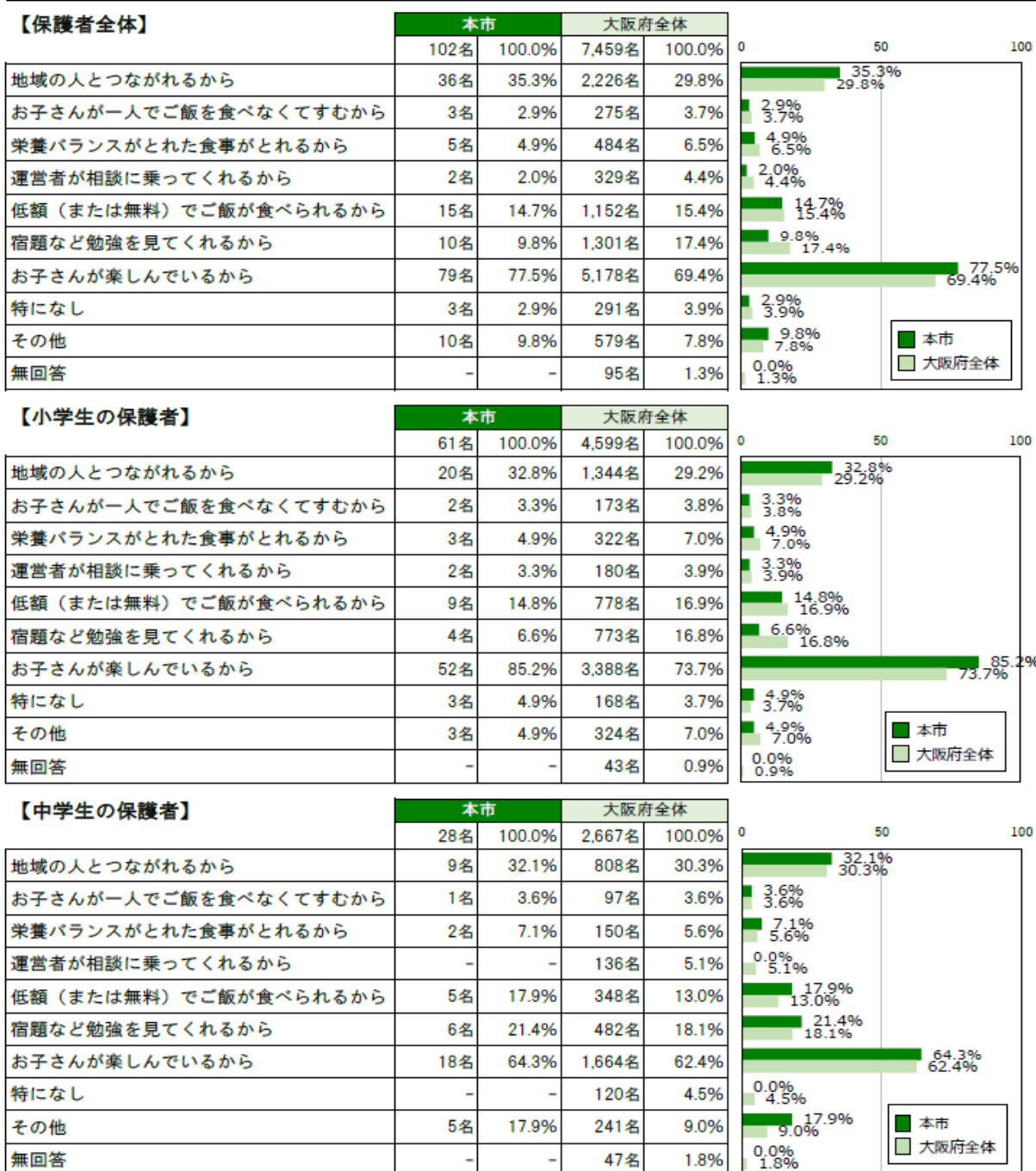


保護者全体は、「利用したことがない」が73.5%で、「利用したことがある」が25.8%となっている。

小学生の保護者は、「利用したことがない」が70.5%で、「利用したことがある」が29.0%となっている。

中学生の保護者は、「利用したことがない」が79.6%で、「利用したことがある」が19.0%となっている。

問16（２）子どもの居場所を利用することで良いと思うこと

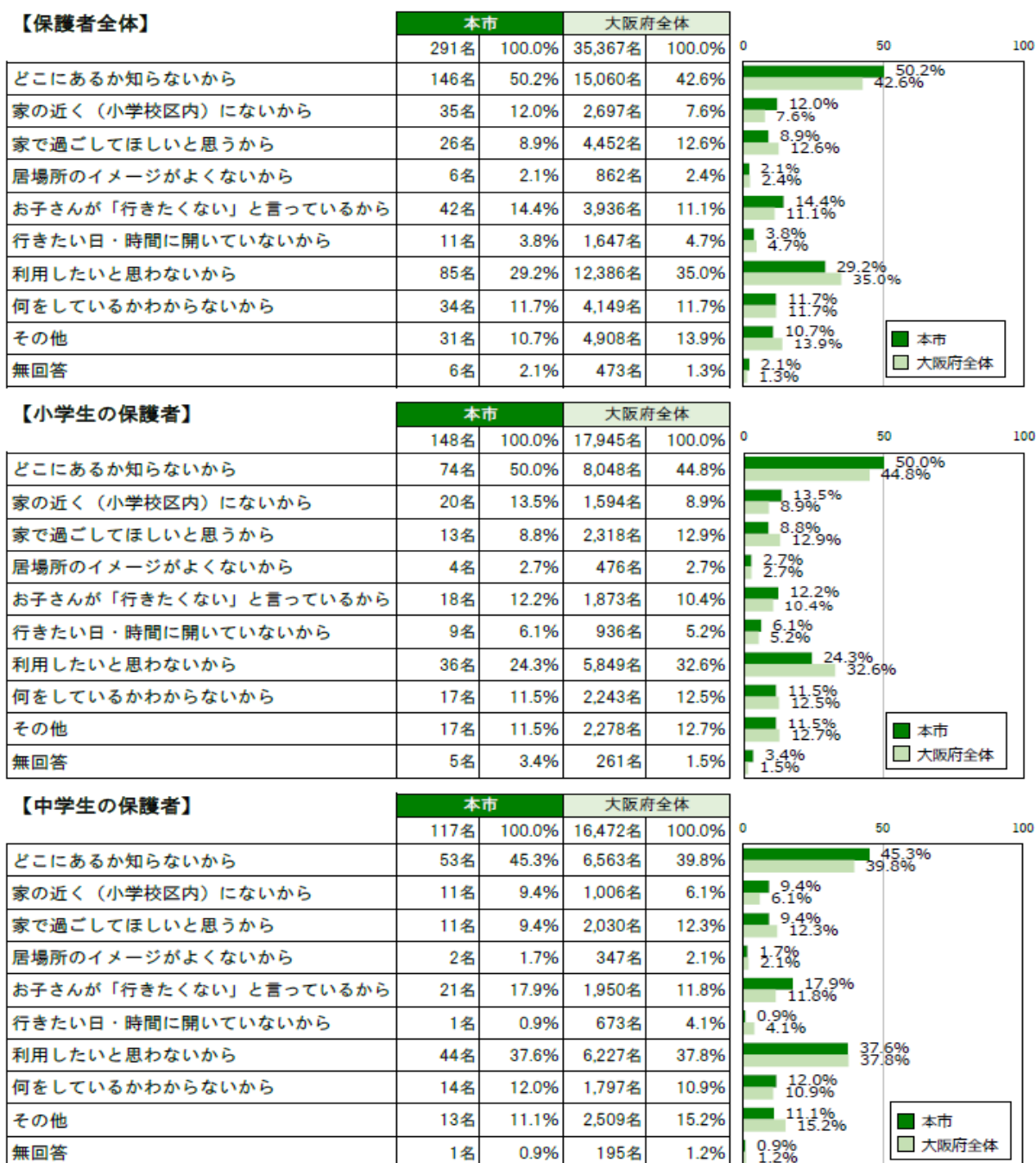


保護者全体は、「お子さんが楽しんでいるから」が77.5%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が35.3%、「低額(または無料)でご飯が食べられるから」が14.7%、「宿題など勉強を見てくれるから」が9.8%となっている。

小学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が85.2%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が32.8%、「低額(または無料)でご飯が食べられるから」が14.8%、「宿題など勉強を見てくれるから」が6.6%となっている。

中学生の保護者は、「お子さんが楽しんでいるから」が64.3%で最も多く、次いで「地域の人とつながれるから」が32.1%、「宿題など勉強を見てくれるから」が21.4%、「低額(または無料)でご飯が食べられるから」が17.9%となっている。

問16（３）子どもの居場所を利用しない理由



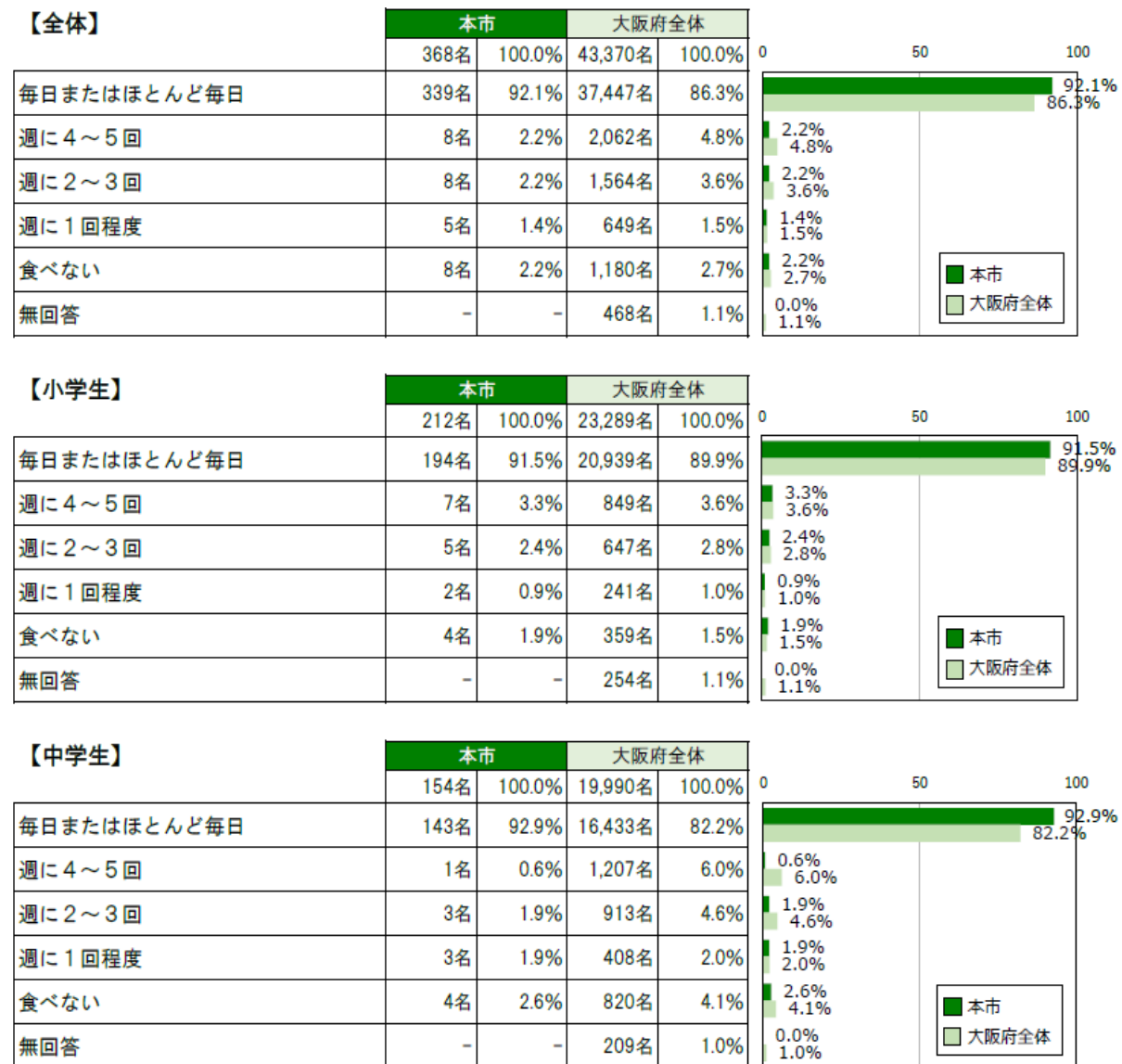
保護者全体は、「どこにあるか知らないから」が50.2%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が29.2%、「お子さんが「行きたくない」と言っているから」が14.4%、「家の近く(小学校区内)にないから」が12.0%となっている。

小学生の保護者は、「どこにあるか知らないから」が50.0%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が24.3%、「家の近く(小学校区内)にないから」が13.5%、「お子さんが「行きたくない」と言っているから」が12.2%となっている。

中学生の保護者は、「どこにあるか知らないから」が45.3%で最も多く、次いで「利用したいと思わないから」が37.6%、「お子さんが「行きたくない」と言っているから」が17.9%、「何をしているかわからないから」が12.0%となっている。

3. 生活・勉強に関すること

問4（1）朝食の頻度



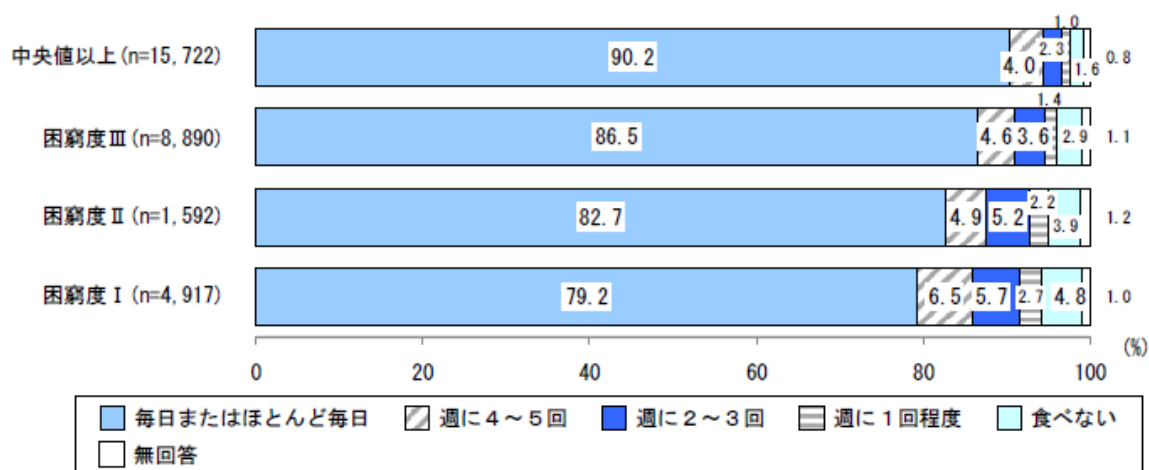
全体は、「毎日またはほとんど毎日」が92.1%で最も多く、次いで「週に4～5回」、「週に2～3回」、「食べない」がそれぞれ2.2%、「週に1回程度」が1.4%となっている。

小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が91.5%で最も多く、次いで「週に4～5回」が3.3%、「週に2～3回」が2.4%、「食べない」が1.9%となっている。

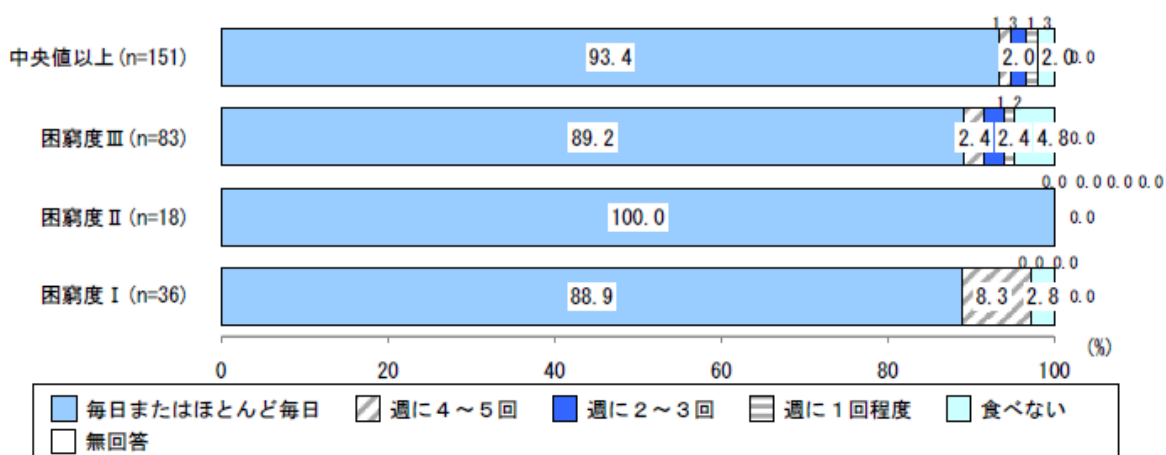
中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が92.9%で最も多く、次いで「食べない」が2.6%、「週に2～3回」、「週に1回程度」がそれぞれ1.9%となっている。

困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票問4(1)）

<大阪府内全体>

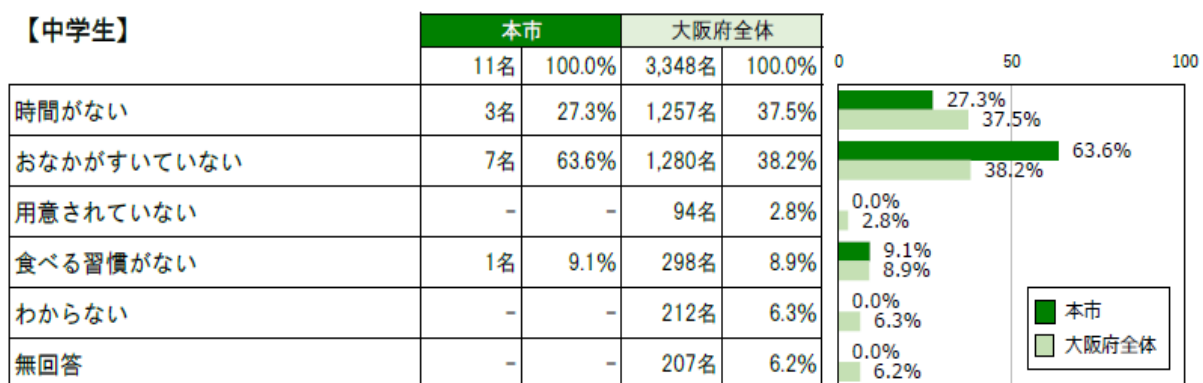
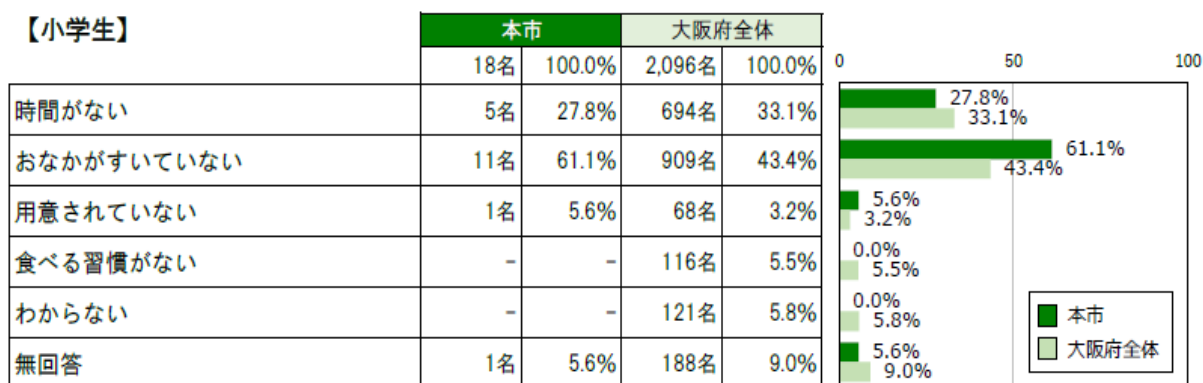


<摂津市>



困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度Ⅰ群では、11.1%が朝食は「週に4～5回」、「食べない」と回答しており、朝食を毎日食べていない人の割合が最も高くなっている。

問4（2）朝食を食べない理由

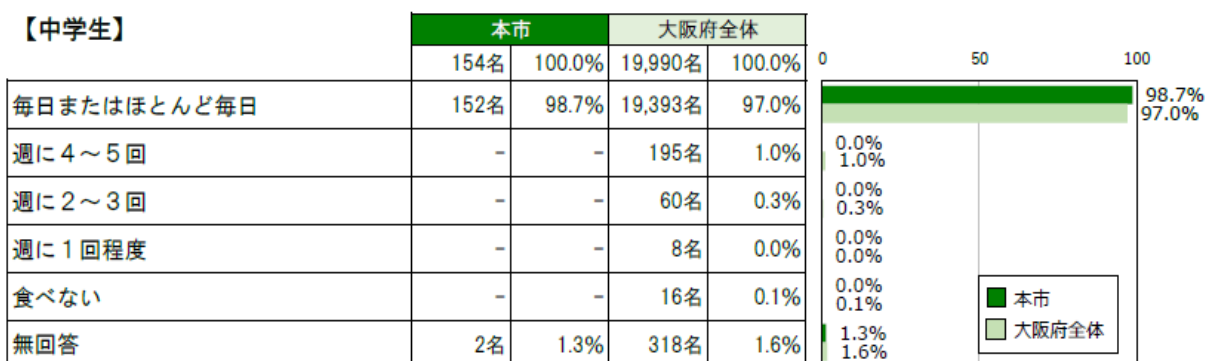
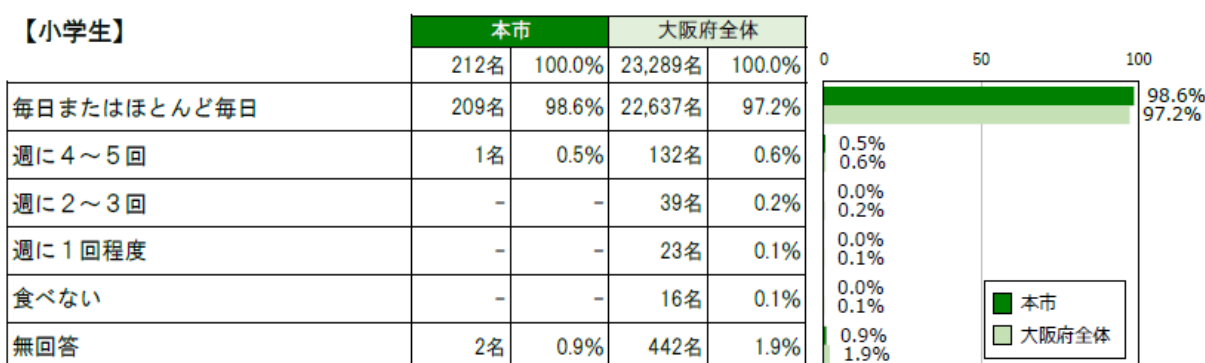
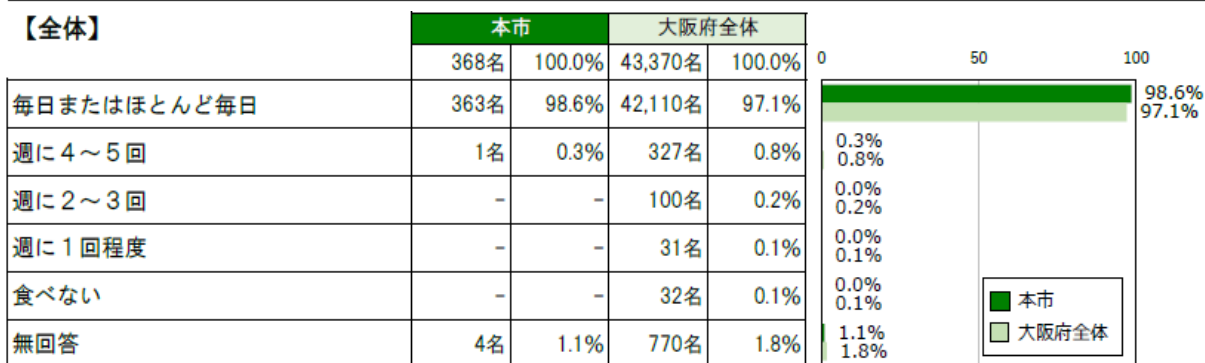


全体は、「おなかがすいていない」が62.1%で最も多く、次いで「時間がない」が27.6%、「用意されていない」、「食べる習慣がない」がそれぞれ3.4%となっている。

小学生は、「おなかがすいていない」が61.1%で最も多く、次いで「時間がない」が27.8%、「用意されていない」が5.6%となっている。

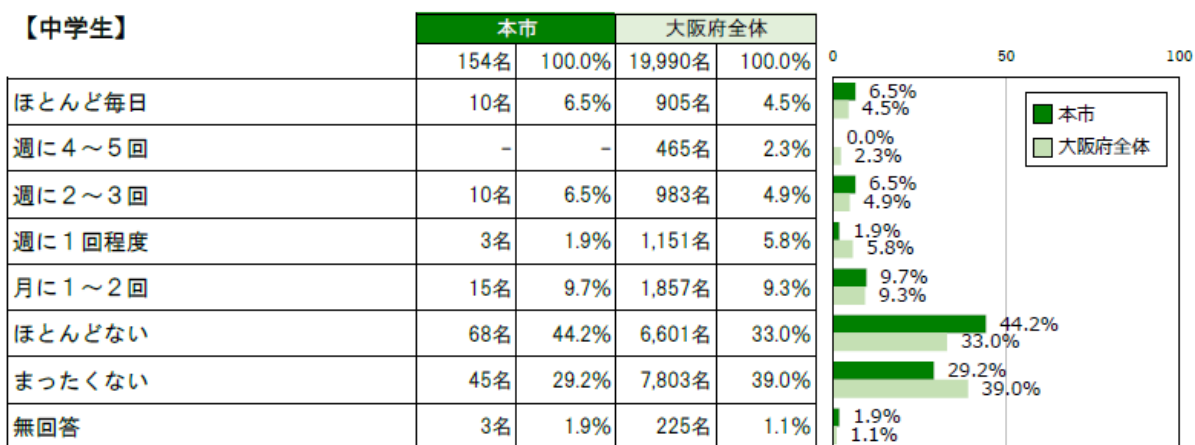
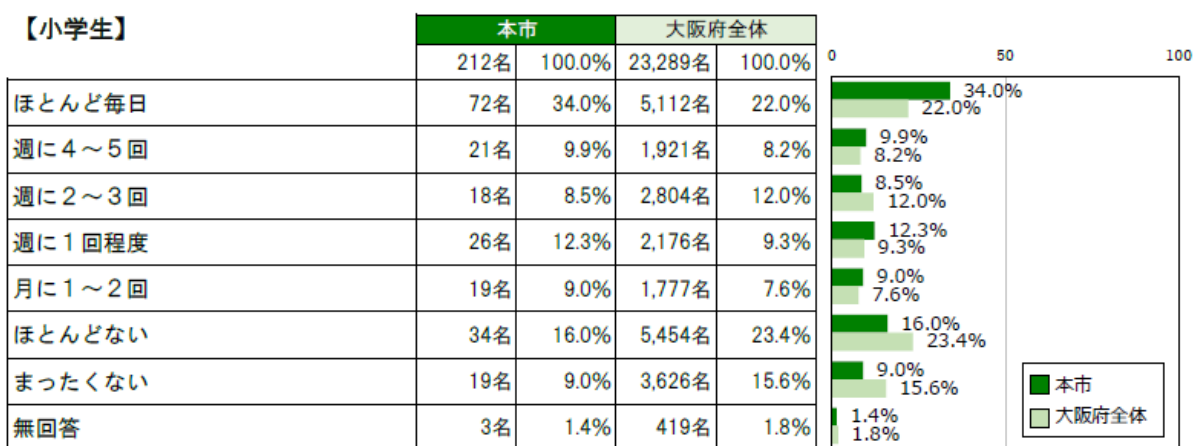
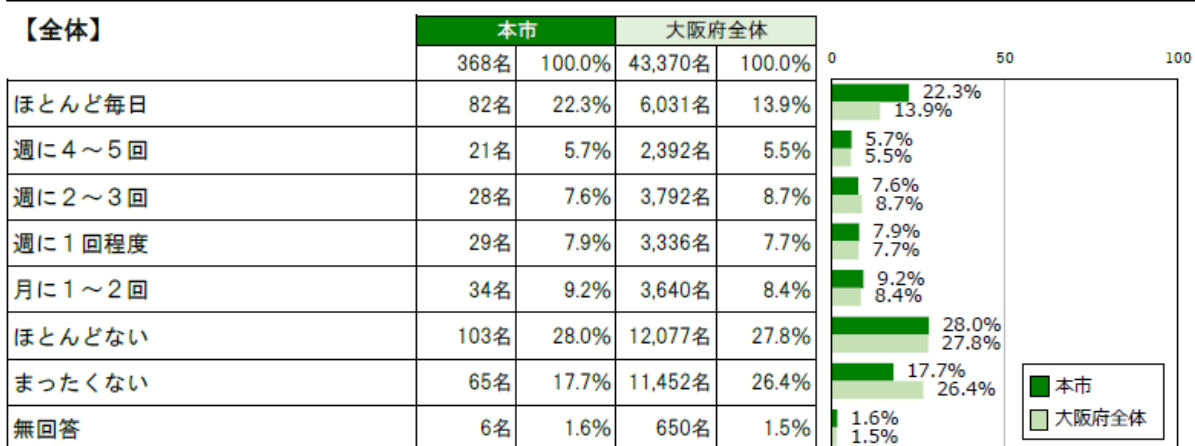
中学生は、「おなかがすいていない」が63.6%で最も多く、次いで「時間がない」が27.3%、「食べる習慣がない」が9.1%となっている。

問5（1）夕食の頻度



全体は、「毎日またはほとんど毎日」が98.6%で最も多くなっている。小学生は、「毎日またはほとんど毎日」が98.6%で最も多くなっている。中学生は、「毎日またはほとんど毎日」が98.7%と最も多くなっている。

問8 保護者との関係性 ⑤うちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか



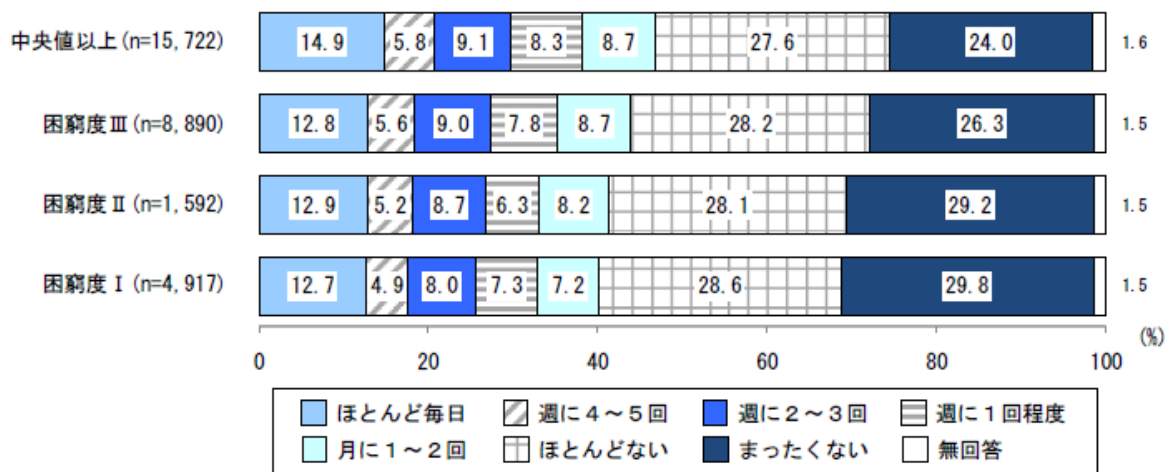
全体は、「ほとんどない」が28.0%で最も多く、次いで「ほとんど毎日」が22.3%、「まったくない」が17.7%、「月に1～2回」が9.2%となっている。

小学生は、「ほとんど毎日」が34.0%で最も多く、次いで「ほとんどない」が16.0%、「週に1回程度」が12.3%、「週に4～5回」が9.9%となっている。

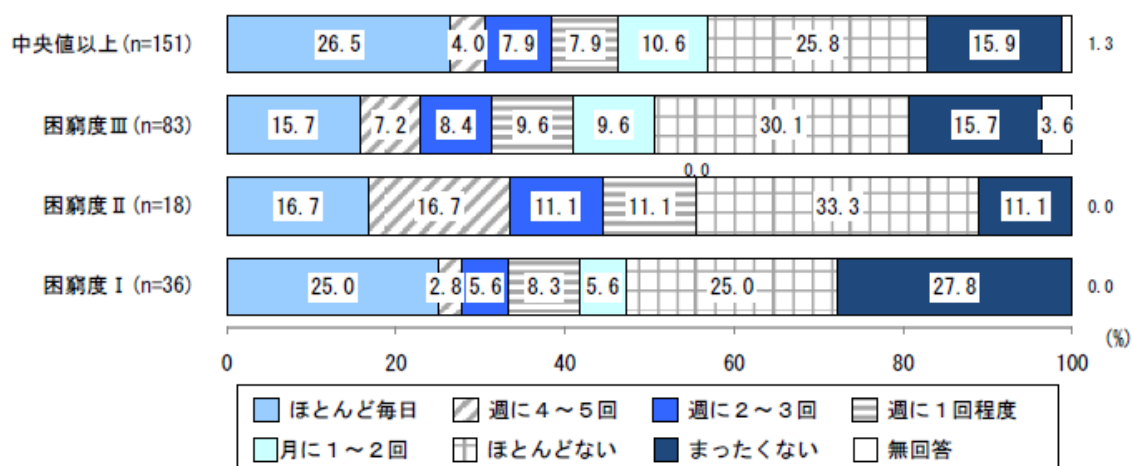
中学生は、「ほとんどない」が44.2%で最も多く、次いで「まったくない」が29.2%、「月に1～2回」が9.7%、「ほとんど毎日」、「週に2～3回」がそれぞれ6.5%となっている。

困窮度別に見た、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうか（子ども票問8⑤）

<大阪府内全体>

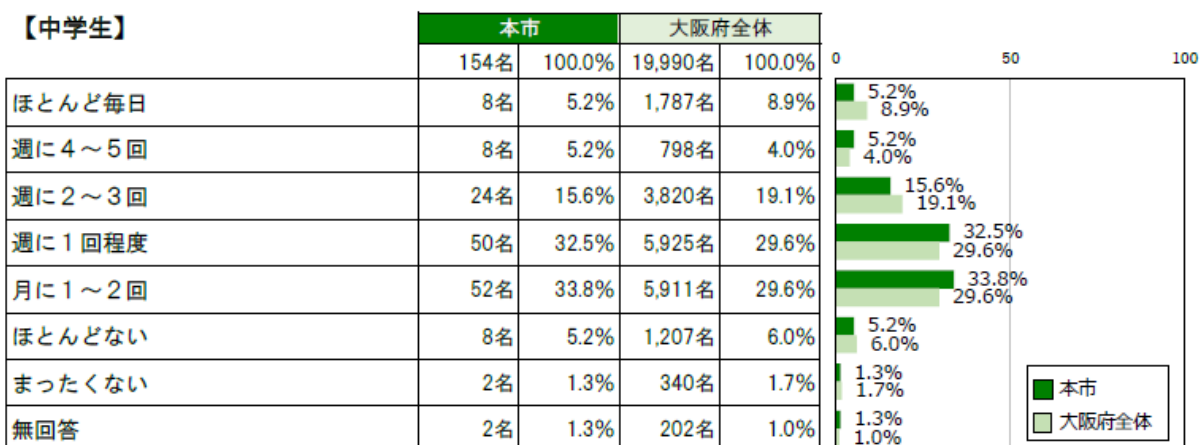


<摂津市>



困窮度別に保護者と子どもの関わり(おうちの大人に宿題をみてもらうか)を見ると、困窮度Ⅰ群では、「まったくない」と回答した人は 27.8%で最も高くなっている一方で、「ほとんど毎日」も 25.0%で高くなっている。「ほとんど毎日」は、中央値以上群が 26.5%で最も高くなっている。

問8 保護者との関係性 ⑩おうちの大人のひとと一緒に外出するか（散歩する・買い物に出かける・外食をするなど）

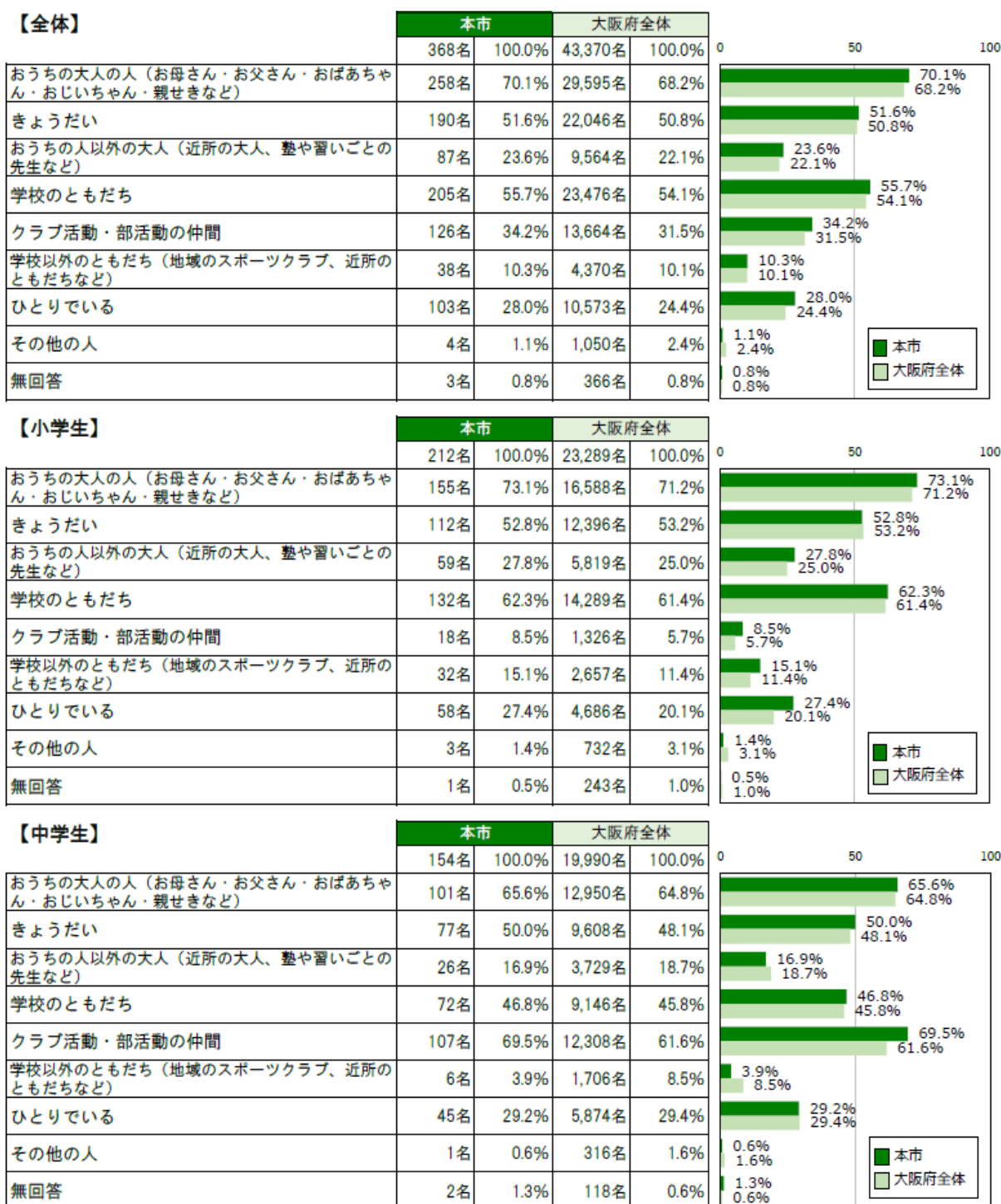


全体は「週に1回程度」が31.0%で最も多く、次いで「週に2～3回」が26.1%、「月に1～2回」が22.8%、「ほとんど毎日」が9.2%、「週に4～5回」が5.4%となっている。

小学生は「週に2～3回」が34.0%で最も多く、次いで「週1回程度」が30.2%、「月に1～2回」が15.1%、「ほとんど毎日」が11.8%となっている。

中学生は「月に1～2回」が33.8%で最も多く、次いで「週に1回程度」が32.5%、「週に2～3回」が15.6%となっている。

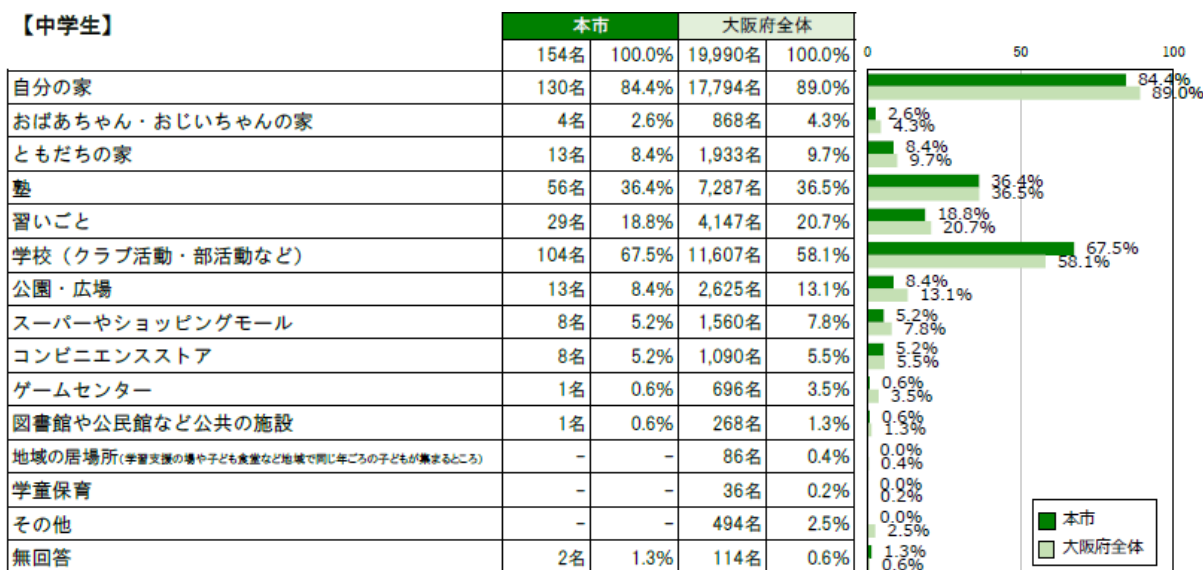
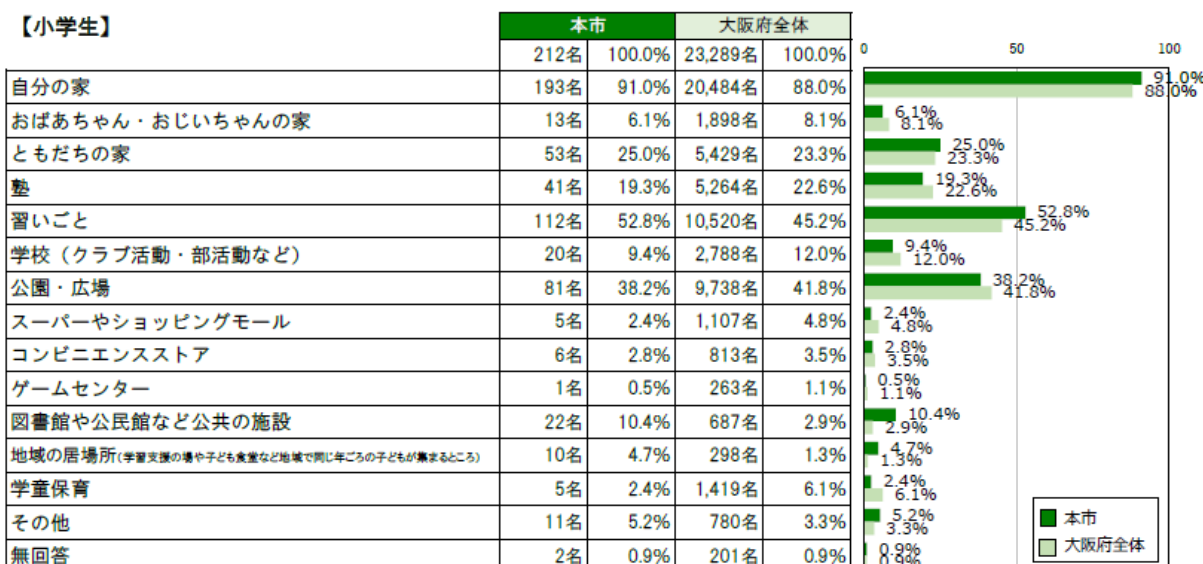
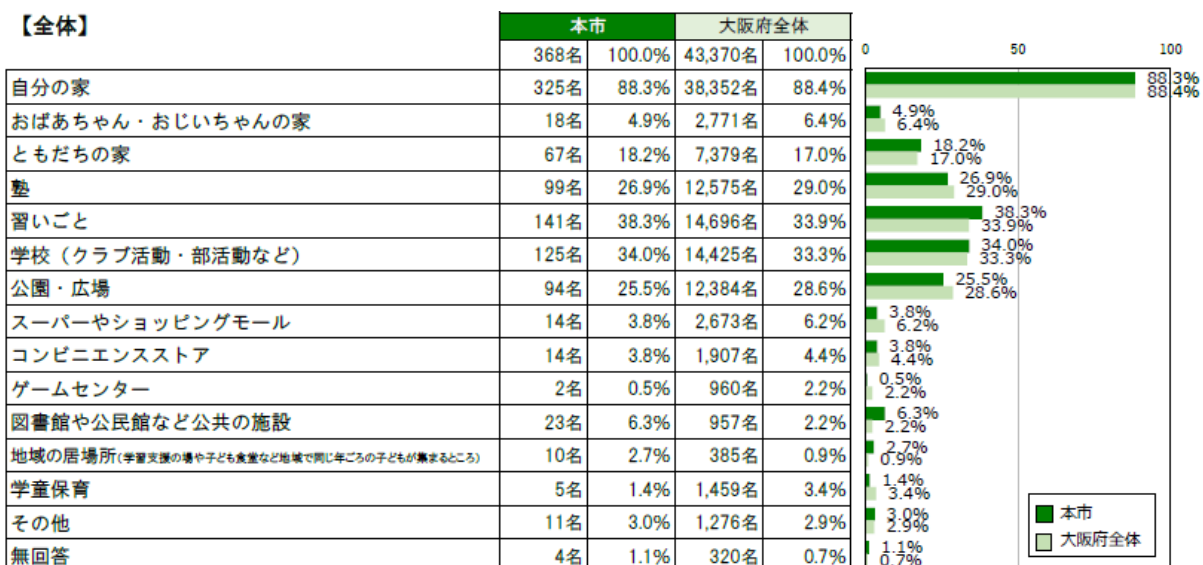
問10 放課後を一緒に過ごす人



全体は、「おうちの大人の人」が70.1%で最も多く、次いで「学校のともだち」が55.7%、「きょうだい」が51.6%、「クラブ活動・部活動の仲間」が34.2%となっている。

小学生は、「おうちの大人の人」が73.1%で最も多く、次いで「学校のともだち」が62.3%、「きょうだい」が52.8%、「おうちの人以外の大人」が27.8%となっている。中学生は、「クラブ活動・部活動の仲間」が69.5%で最も多く、次いで「おうちの大人の人」が65.6%、「きょうだい」が50.0%、「学校のともだち」が46.8%となっている。

問11 放課後を過ごす場所

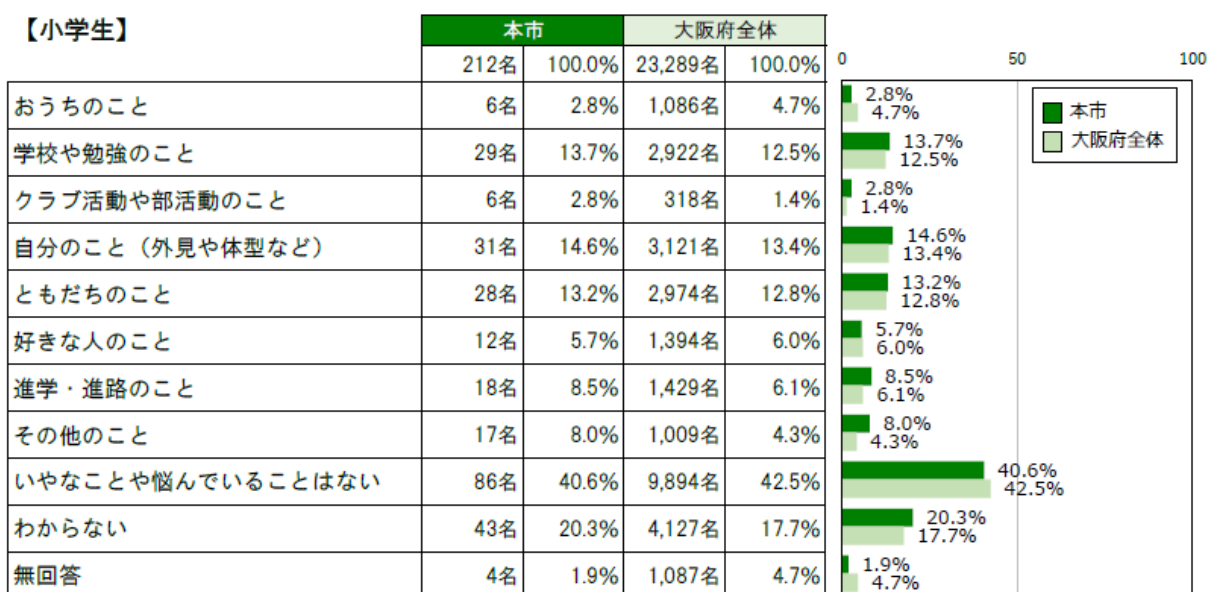
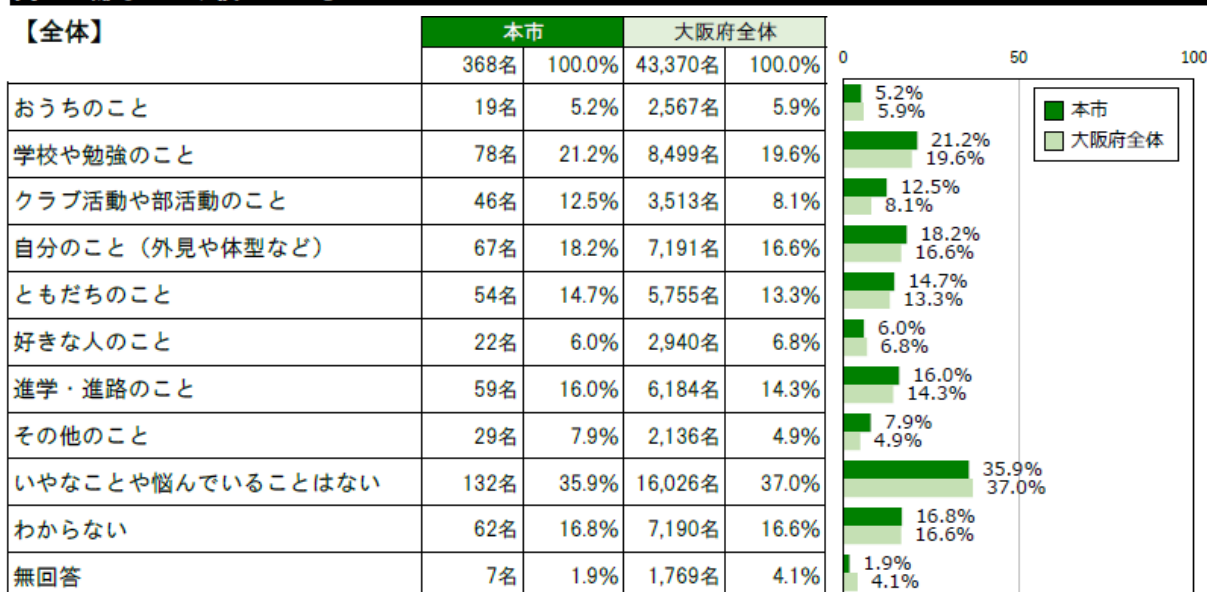


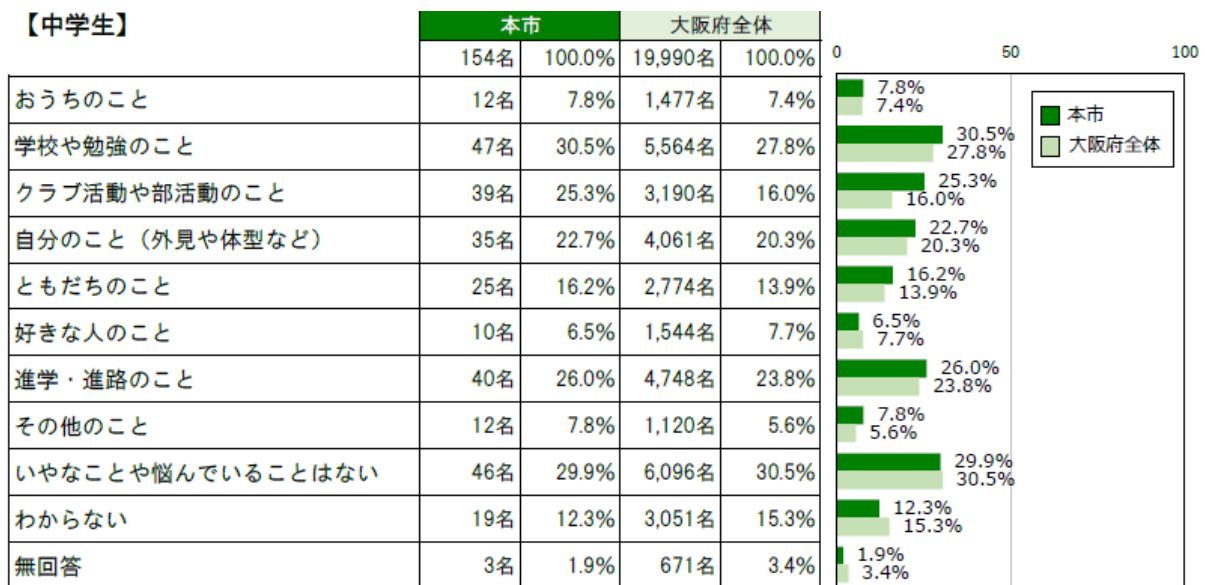
全体は、「自分の家」が88.3%で最も多く、次いで「習いごと」が38.3%、「学校(クラブ活動・部活動など)」が34.0%、「塾」が26.9%となっている。

小学生は、「自分の家」が91.0%で最も多く、次いで「習いごと」が52.8%、「公園・広場」が38.2%、「ともだちの家」が25.0%となっている。

中学生は、「自分の家」が84.4%で最も多く、次いで「学校(クラブ活動・部活動など)」が67.5%、「塾」が36.4%、「習いごと」が18.8%となっている。

問17 嫌なことや悩んでいること



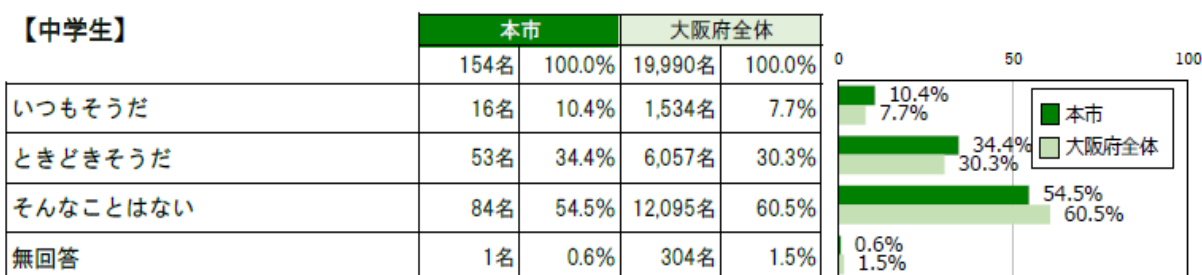
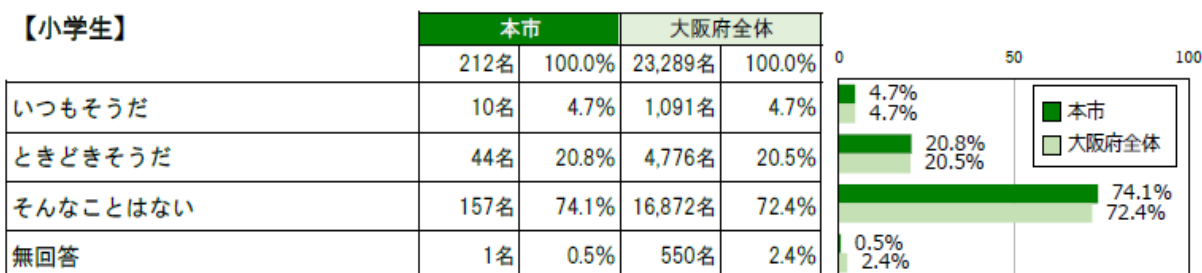


全体は、「いやなことや悩んでいることはない」が35.9%で最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が21.2%、「自分のこと（外見や体型など）」が18.2%、「進学・進路のこと」が16.0%となっている。

小学生は、「いやなことや悩んでいることはない」が40.6%で最も多く、次いで「自分のこと（外見や体型など）」が14.6%、「学校や勉強のこと」が13.7%、「ともだちのこと」が13.2%となっている。

中学生は、「学校や勉強のこと」が30.5%で最も多く、次いで「いやなことや悩んでいることはない」が29.9%、「進学・進路のこと」が26.0%、「クラブ活動や部活動のこと」が25.3%となっている。

問19 この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする



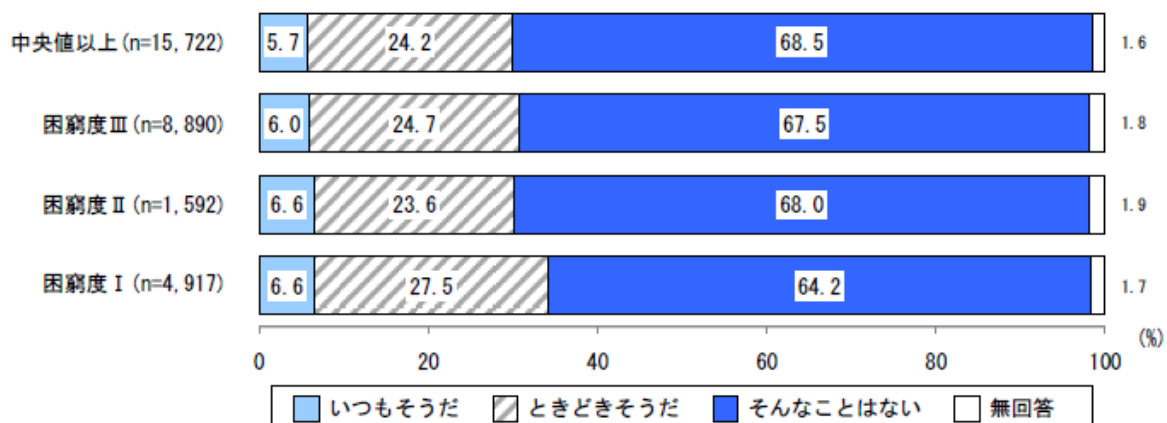
全体は、「そんなことはない」が65.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が26.6%、「いつもそうだ」が7.3%となっている。

小学生は、「そんなことはない」が74.1%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が20.8%、「いつもそうだ」が4.7%となっている。

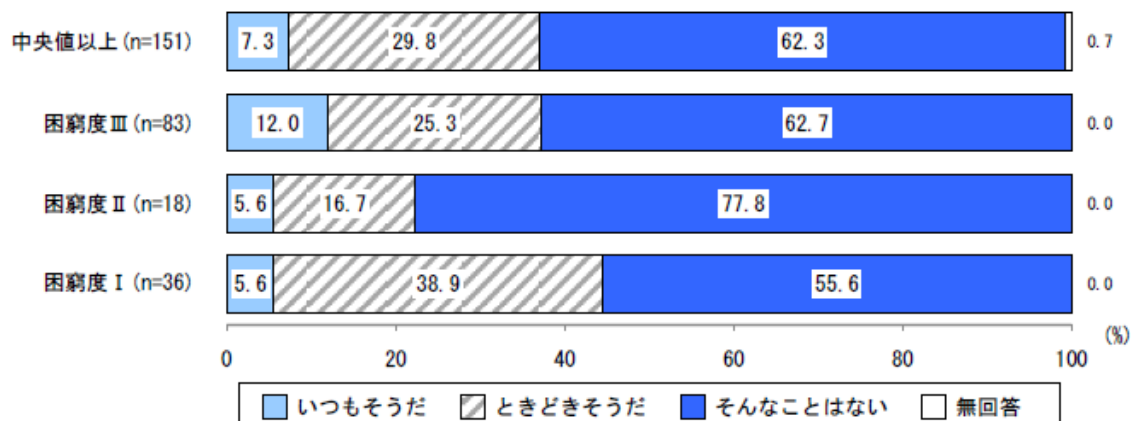
中学生は、「そんなことはない」が54.5%で最も多く、次いで「ときどきそうだ」が34.4%、「いつもそうだ」が10.4%となっている。

困窮度別に見た、この一週間の気持ちの状況 ⑤一人ぼっちのような気がする
(子ども票問 19⑤)

<大阪府内全体>



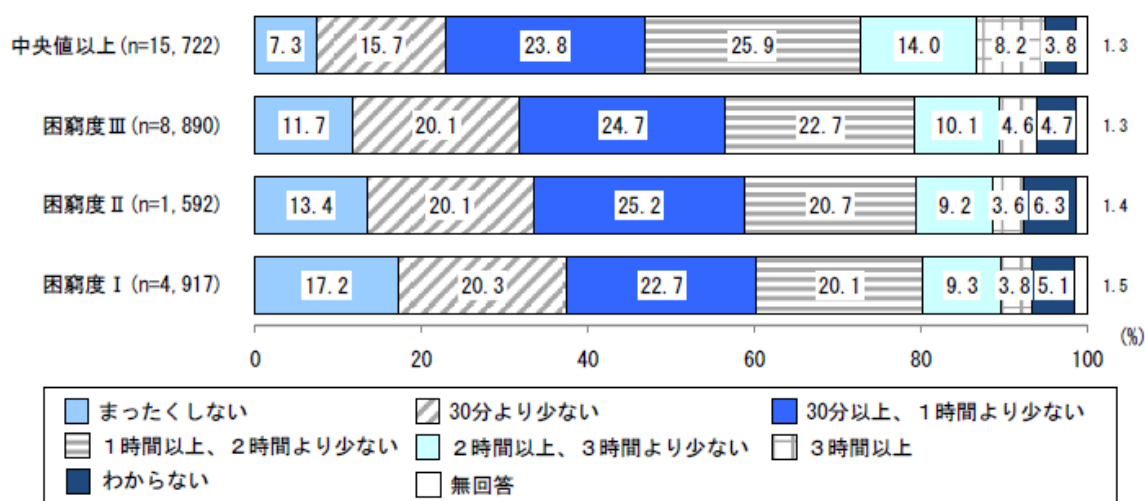
<摂津市>



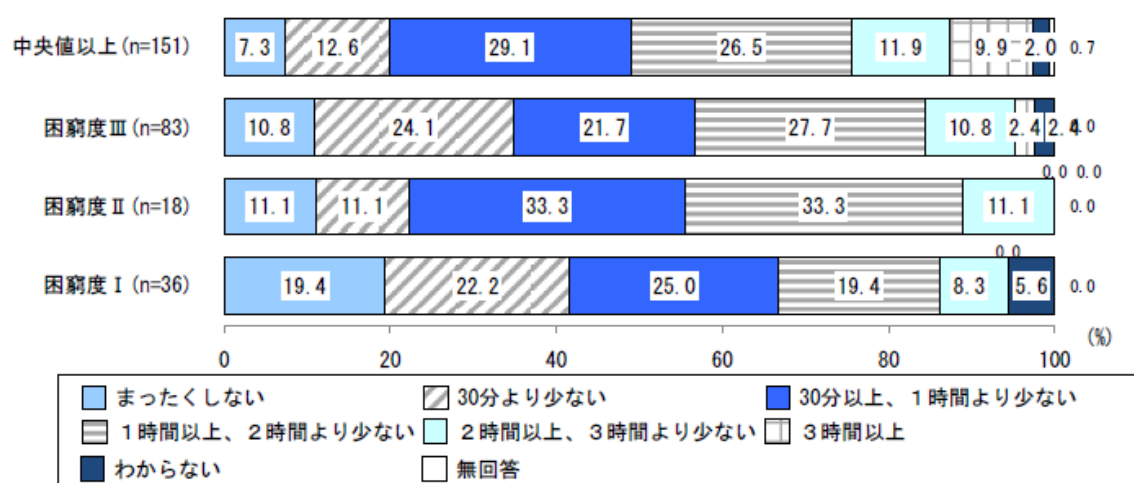
困窮度別にこの一週間の気持ちの状況で一人ぼっちのような気がするを見ると、「いつもそうだ」と回答した人は困窮度Ⅲ群(12.0%)で最も高くなっている。

困窮度別に見た、授業時間以外の 1 日あたりの勉強時間 ①学校がある日（月～金曜日）
（子ども票問 13①）

<大阪府内全体>



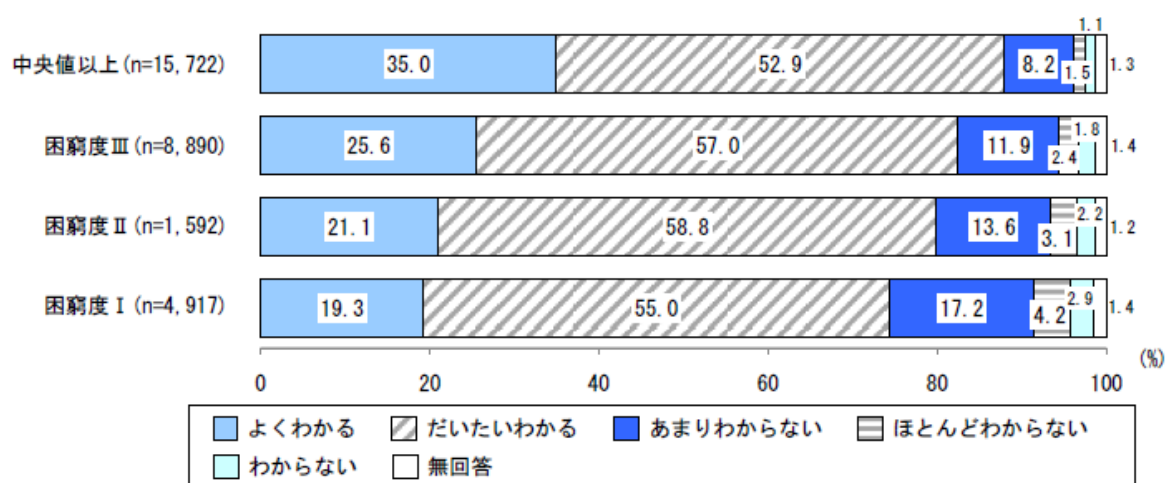
<摂津市>



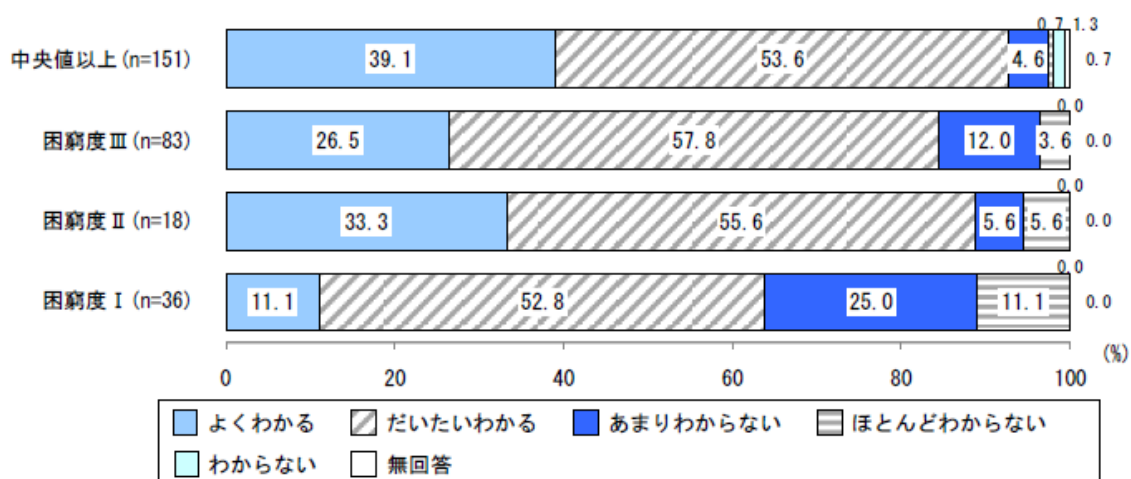
困窮度別に授業以外の勉強時間を見ると、学校のある日では、困窮度が高まるにつれて、「まったくしない」と回答する割合が高くなり、困窮度Ⅰ群では 19.4%となっている。「3時間以上」は、中央値以上が 9.9%で最も高く、困窮度Ⅱ及び困窮度Ⅰでは、0.0%となっている。

困窮度別に見た、学校の勉強で気持ちに近いもの（子ども票問 14(1)）

<大阪府内全体>



<摂津市>

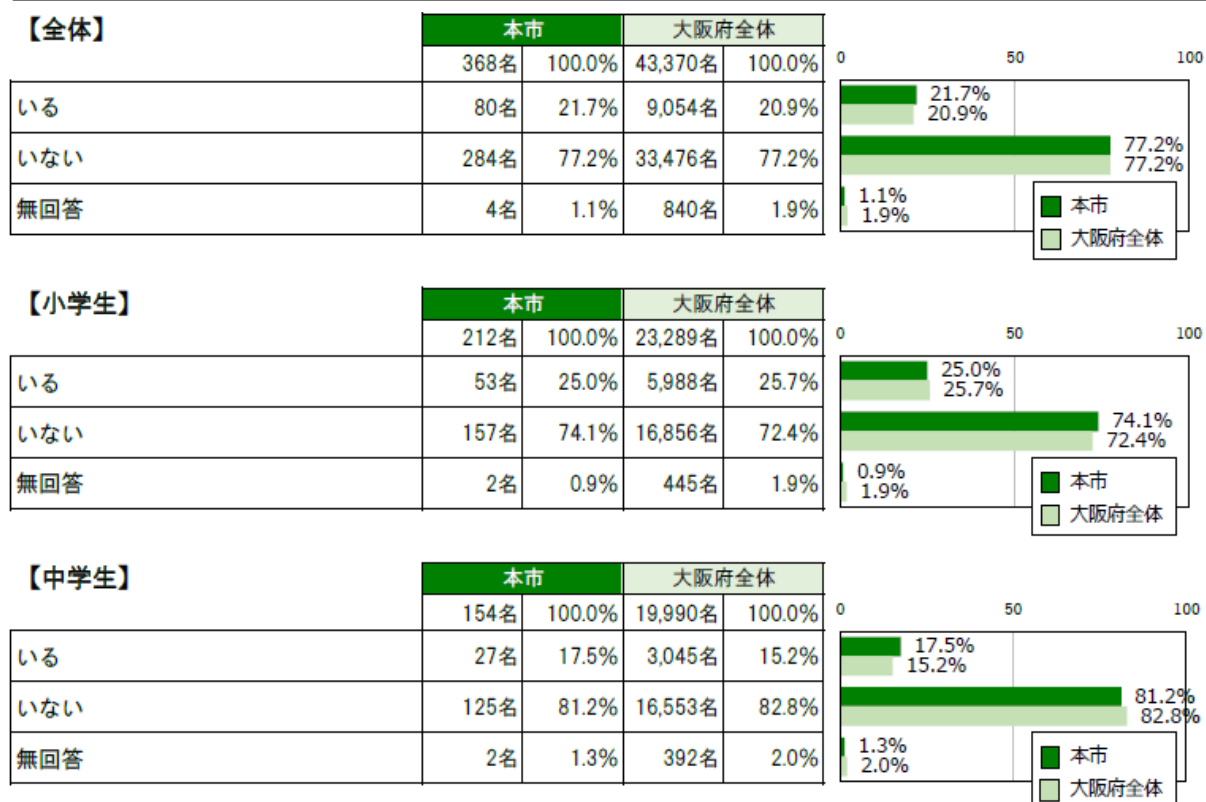


困窮度別に学校の勉強で気持ちに近いものを見ると、「よくわかる」と回答した人の割合は困窮度Ⅰ群が11.1%で最も低くなっている。

困窮度Ⅰの25.0%が「あまりわからない」、11.1%が「ほとんどわからない」となっている。

4. ヤングケアラーに関すること

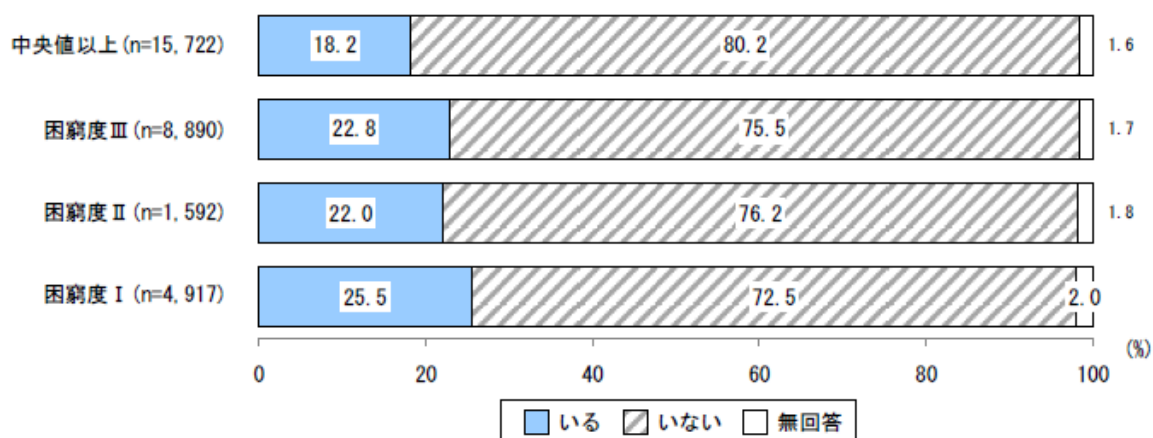
問26（１）自分が世話をしている人の有無



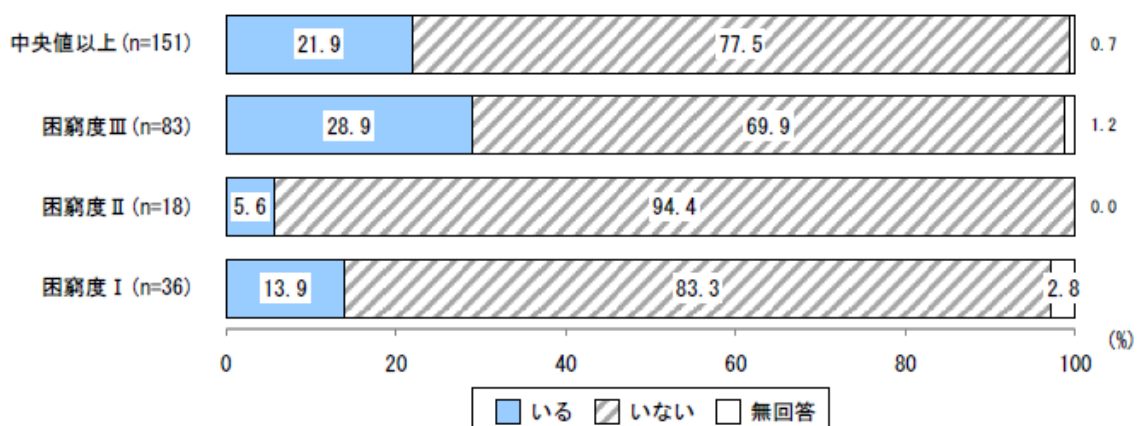
全体は、「いる」が21.7%、「いない」が77.2%となっている。
 小学生は、「いる」が25.0%、「いない」が74.1%となっている。
 中学生は、「いる」が17.5%、「いない」が81.2%となっている。

困窮度別に見た、自分が世話をしている人の有無（子ども票問 26(1)）

<大阪府内全体>



<摂津市>



困窮度別に自分が世話をしている人の有無を見ると、自分が世話をしている人が「いる」と回答した割合は困窮度Ⅲ群で 28.9%と最も高くなっている。

本市においては、こどもが世話をしている人の有無と困窮度の間には、相関関係はあまり見られない。

問26（２）世話をしている相手

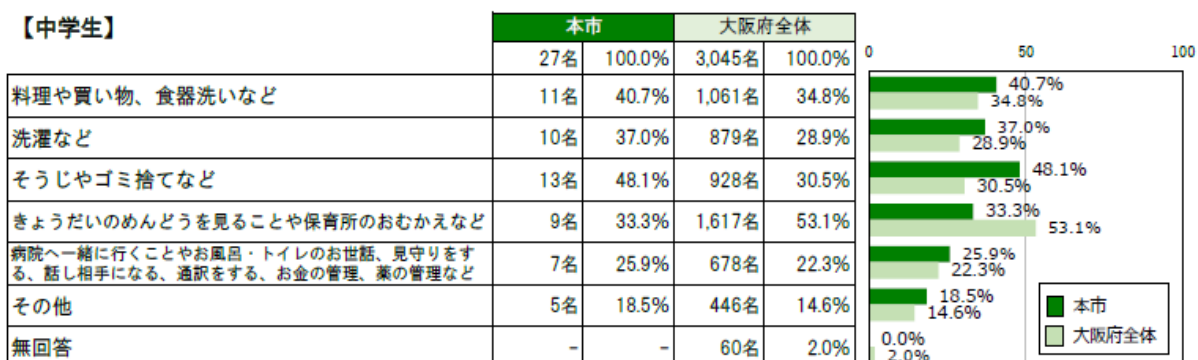
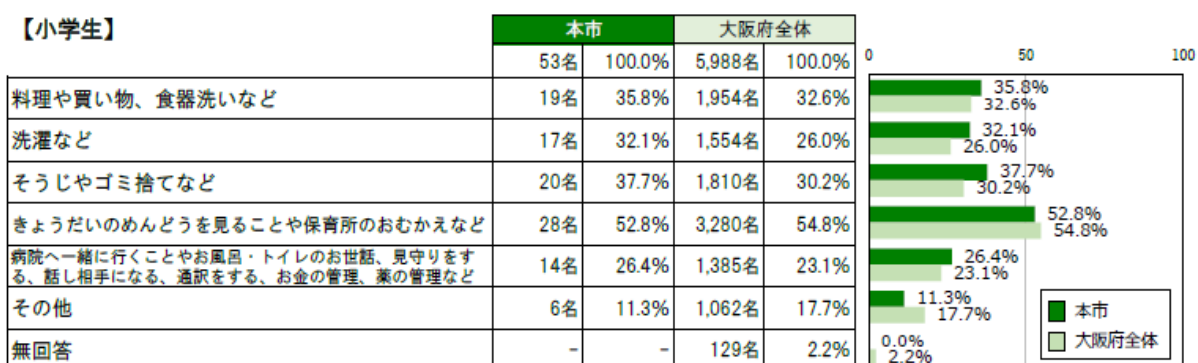
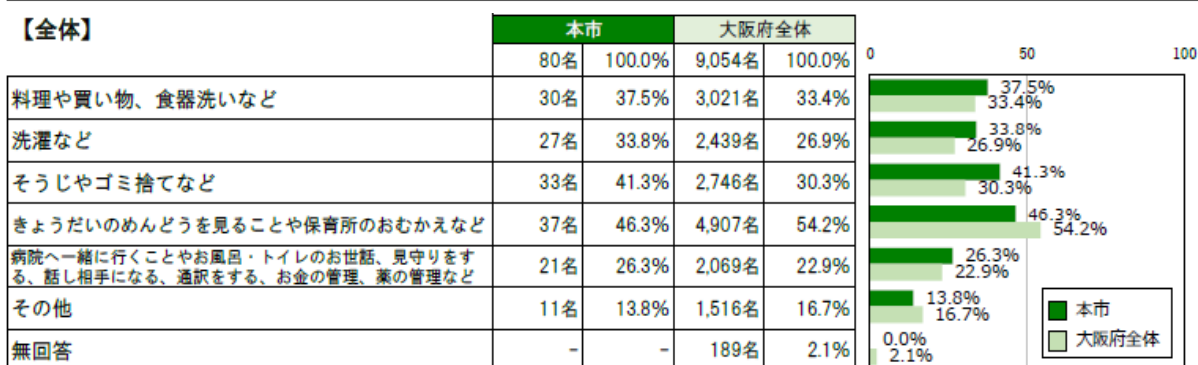


全体は、「お母さん」が41.3%、「お父さん」が30.0%、「おばあちゃん」が8.8%、「おじいちゃん」が7.5%、「きょうだい」が63.8%となっている。

小学生は、「お母さん」が41.5%、「お父さん」が30.2%、「おばあちゃん」が5.7%、「おじいちゃん」が3.8%、「きょうだい」が69.8%となっている。

中学生は、「お母さん」が40.7%、「お父さん」が29.6%、「おばあちゃん」が14.8%、「おじいちゃん」が14.8%、「きょうだい」が51.9%となっている。

問26（3）世話をしている内容

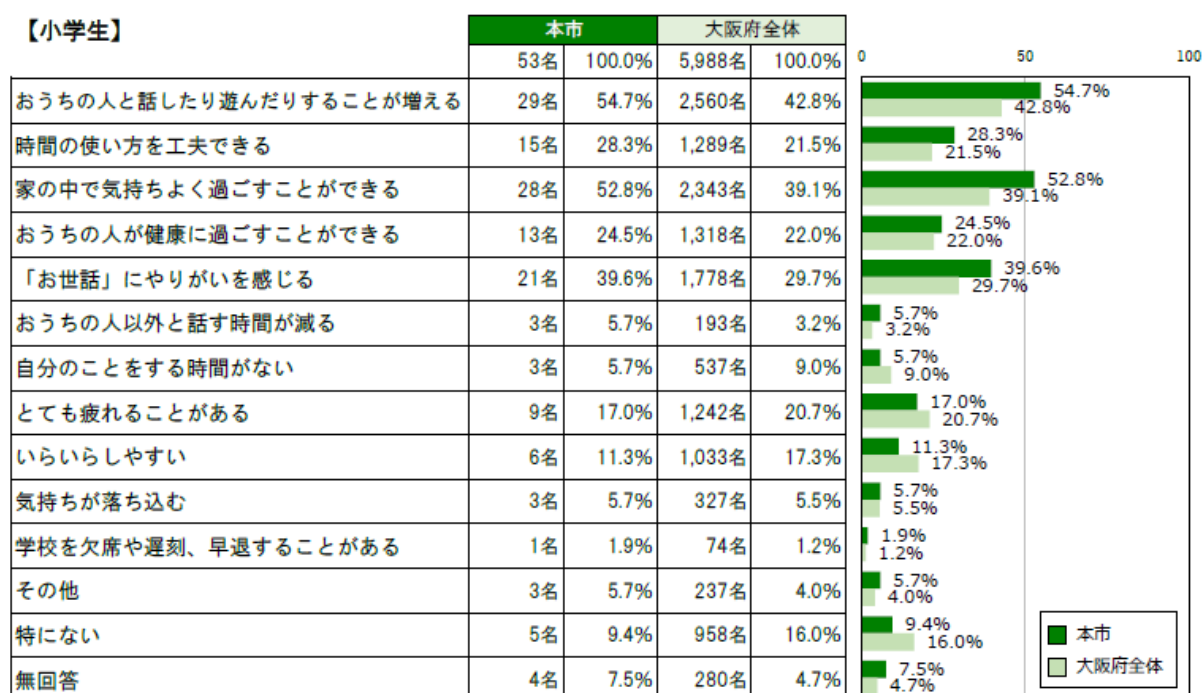
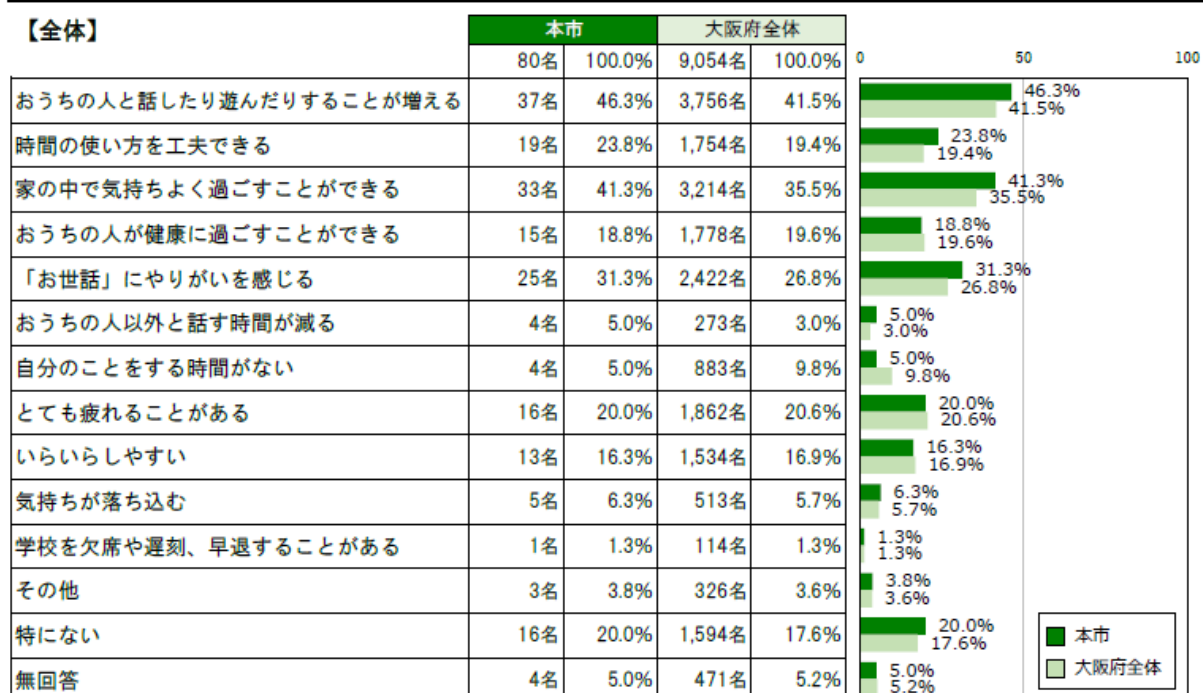


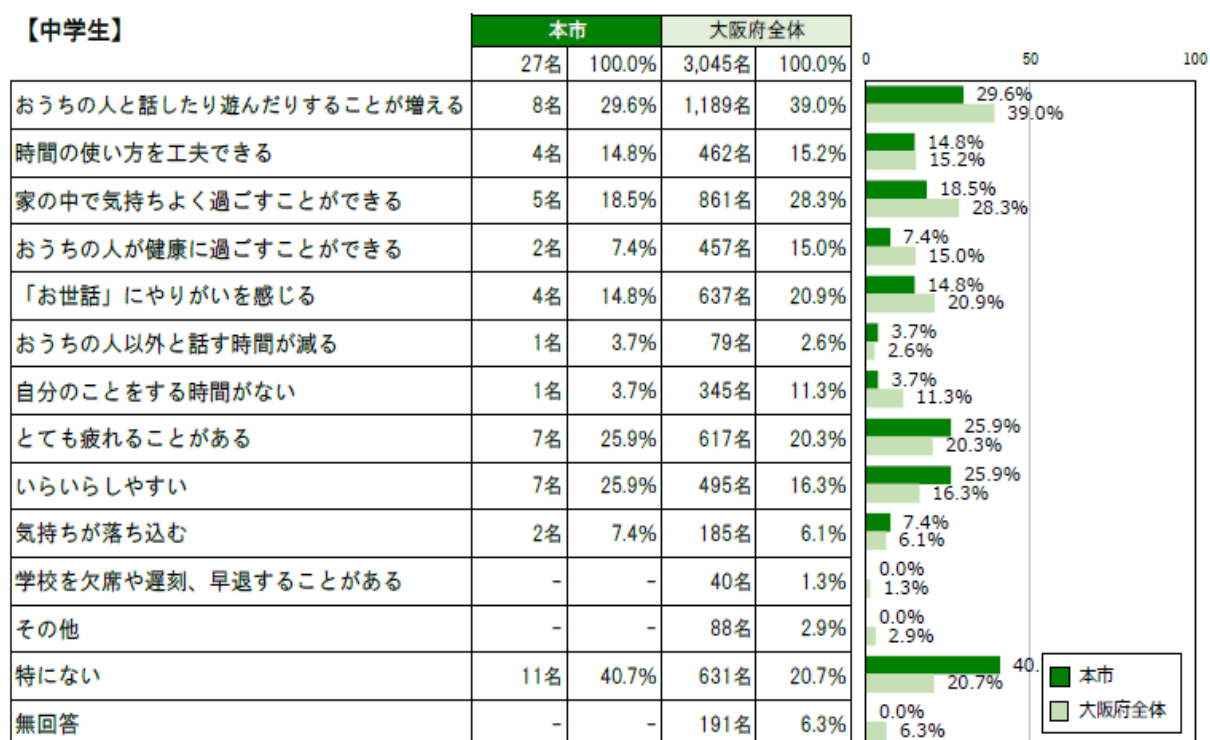
全体は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が46.3%で最も多く、次いで「そうじやゴミ捨てなど」が41.3%、「料理や買い物、食器洗いなど」が37.5%、「洗濯など」が33.8%となっている。

小学生は、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が52.8%で最も多く、次いで「そうじやゴミ捨てなど」が37.7%、「料理や買い物、食器洗いなど」が35.8%、「洗濯など」が32.1%となっている。

中学生は、「そうじやゴミ捨てなど」が48.1%で最も多く、次いで「料理や買い物、食器洗いなど」が40.7%、「洗濯など」が37.0%、「きょうだいのめんどうを見ることや保育所のおむかえなど」が33.3%となっている。

問26（7）世話をしていることの影響





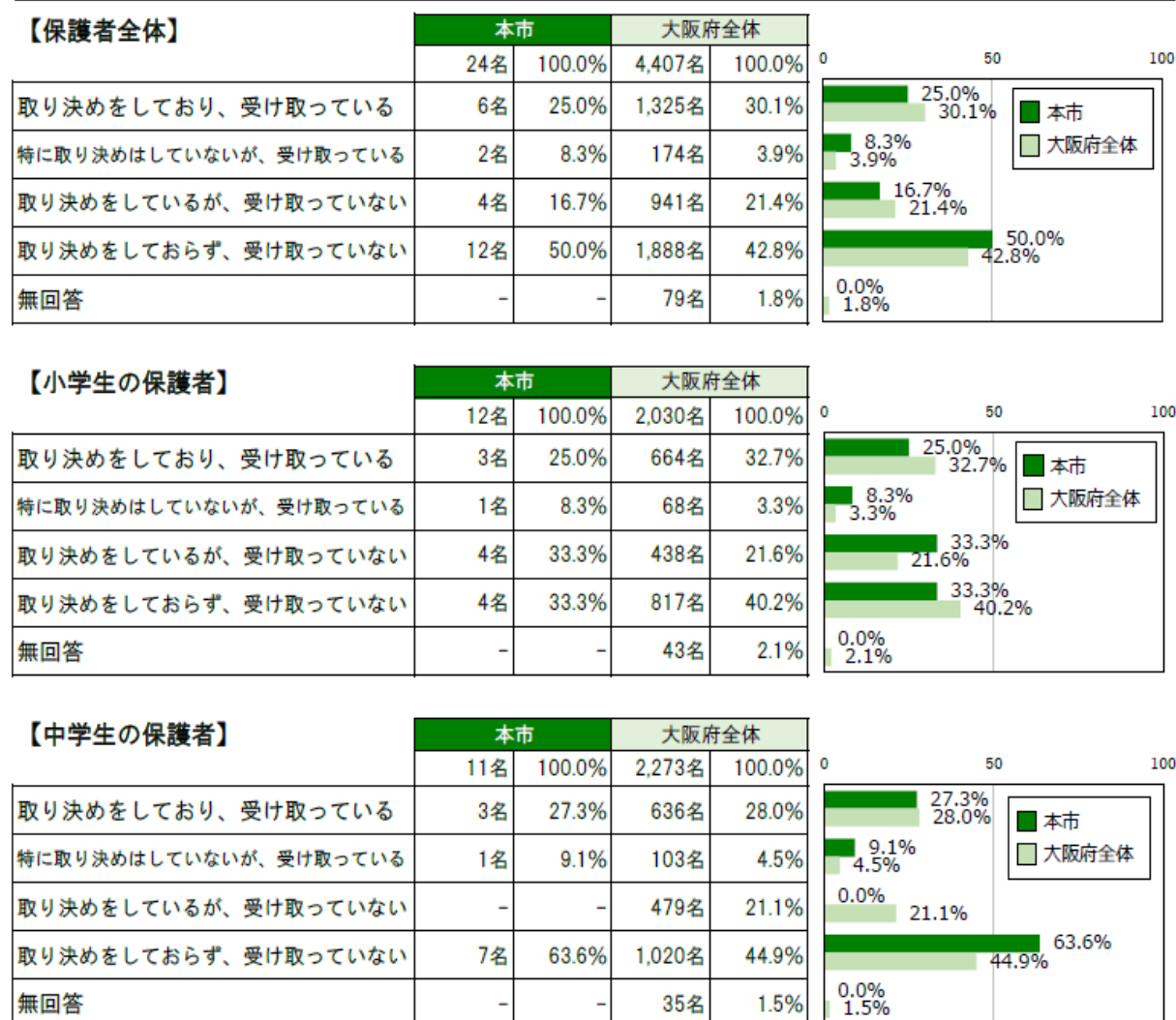
全体は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が46.3%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が41.3%、「「お世話」にやりがいを感じる」が31.3%、「時間の使い方を工夫できる」が23.8%となっている。

小学生は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が54.7%で最も多く、次いで「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が52.8%、「「お世話」にやりがいを感じる」が39.6%、「時間の使い方を工夫できる」が28.3%となっている。

中学生は、「おうちの人と話したり遊んだりすることが増える」が29.6%で最も多く、次いで「とても疲れることがある」、「いらいらしやすい」がそれぞれ25.9%、「家の中で気持ちよく過ごすことができる」が18.5%となっている。

5. ひとり親に関すること

問4 離婚相手との養育費の取り決めや受け取り



保護者全体は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が50.0%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が25.0%、「取り決めをしているが、受け取っていない」が16.7%、「特に取り決めはしていないが、受け取っている」が8.3%となっている。

小学生の保護者は、「取り決めをしているが、受け取っていない」、「取り決めをしておらず、受け取っていない」がそれぞれ33.3%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が25.0%、「特に取り決めはしていないが、受け取っている」が8.3%となっている。

中学生の保護者は、「取り決めをしておらず、受け取っていない」が63.6%で最も多く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」が27.3%、「特に取り決めはしていないが、受け取っている」が9.1%となっている。